

清須市幼児教育プラン



平成20年3月
清 須 市



ごあいさつ

次代を担う子どもたちが心豊かで健やかに生まれ育っていくことは、保護者の方々はもちろんですが、地域、行政ともに共通の願いであります。

清須市は、西枇杷島町、清洲町及び新川町が平成17年7月に合併をして、まもなく3周年を迎えようとしています。この間、少子化対策については平成17年3月に策定した次世代育成支援行動計画「子育て夢プラン」に基づいて様々な施策に取り組んでいるところであります。

また、清須市は「清須市総合計画」を策定して、その将来像「水と歴史に織りなされた安心・快適な環境都市」を目指しているところです。その中でも子育て支援は重要な施策の一つでありますので、清須市としての保育園・幼稚園のあり方やその方向性をお示しすることが必要であったところです。さらには、清須市が合併したことで施設配置の偏在という課題が浮き上がってきたこと、幼稚園・保育園の統廃合を含めた適正な配置、多様な保育ニーズに対応した認定子ども園や民間委託等を含めた運営方法、施設の老朽化や耐震補強などに対応した整備計画、区画整理等による乳幼児の増加が予想される特定地域への対応、などについて検討をする必要性が生じてまいりました。

これらは、子育て支援の中でも、幼児教育に関する課題でありますので、次世代育成支援行動計画「子育て夢プラン」を補完するために、幼児教育プランとして施策を策定することになりました。

清須市幼児教育プランの策定にあたっては、以上のような経緯を踏まえて、次世代育成支援対策行動計画策定委員会において、熱心にご議論されました。また、グループインタビューでは多くの保護者の方々から、子育て支援の全般にわたる貴重なご意見などをいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

今般、清須市幼児教育プランを作成しましたが、まだまだこれから具体的な方策を早急に立てて、実行していかなければなりません。さらには、多くの検討及び研究すべき課題に対して適切に対応していく必要がありますので、このプランに掲げられています事業を着実に進めていく所存であります。

皆様方には、今後とも積極的なご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

1. このプランの策定の目的	1
(1) 背景	1
(2) 趣旨	1
(3) 性格	1
2. 幼児教育をめぐる動き	2
(1) 次世代育成の総合的な取組	2
(2) 幼保一元化と幼保小連携の流れ	2
(3) 市町村合併への対応	2
(4) 地方分権に伴う独自施策の推進	3
3. 本市の概要	4
(1) 上位・関連計画	4
(2) 立地条件	4
(3) 歴史	5
(4) 人口・世帯数	5
(5) 産業・就業者	5
4. 保育・幼児教育の状況	6
(1) 保育園・幼稚園の現状	6
(2) 保育園・幼稚園の配置	11
5. 保育・幼児教育への保護者のニーズ	13
(1) グループインタビュー調査での主な意見	13
(2) 保育園・幼稚園の利用意向 ～次世代支援行動計画アンケート調査より～	14
6. 乳幼児数・園児数の予測と施設整備の課題	15
(1) 乳幼児数の推移と予測	15
(2) 園児数の推移と推計	16
7. 幼児教育の将来像と基本方針	19
(1) 幼児教育の将来像	19
(2) 幼児教育の基本方針	20
(3) 保育園・幼稚園・認定こども園の特徴	22
8. 施設整備および管理運営方針	25
(1) 施設整備の基本方針	25
(2) 施設整備の検討パターンと利点・問題点	26
(3) 管理・運営の検討パターンと利点・問題点	27
9. プランの実実施計画	29
(1) 事業内容とスケジュール	29
(2) 施設整備の進め方	30
<資料 I >	31
1 グループインタビュー調査結果	31
2 母子通園施設等現況調査結果	40

3 認定こども園の概要	42
<資料Ⅱ>	44
1 次世代育成支援対策行動計画策定委員会の開催状況.....	44
2 次世代育成支援対策行動計画策定委員会委員等名簿.....	45
3 幼児教育プランに関するパブリック・コメント実施結果.....	46

1. このプランの策定の目的

(1) 背景

本市は平成 17（2005）年 7 月に 3 町が合併し、現在、保育園 10 園（西枇杷島地区 1 園、清洲地区 5 園、新川地区 4 園）、幼稚園 2 園（西枇杷島地区 2 園）が設置され、保育・幼児教育を行っています。

合併にともなう保育園・幼稚園の統廃合を含めた適正な配置、多様な保育ニーズに対応した認定こども園や民間委託などを含めた運営方法、施設の老朽化などに対応した整備計画、区画整理などによる乳幼児の増加が予想される地域への対応などが、課題となっています。

(2) 趣旨

『子育て夢プラン（次世代育成支援行動計画）』の基本理念「時代を創る次世代が輝くまちきよす」を受けて、次世代の育成及び男女共同参画社会の形成促進を図るために、新市の幼児教育の目標を定めるとともに、その実現に向けて、保育・幼児教育の充実と保育・幼児教育施設の効果的・効率的な配置・整備の方向を明らかにします。

(3) 性格

この計画は、「次世代育成支援対策推進法」に基づいて、平成 17 年 3 月に策定した次世代育成支援行動計画「子育て夢プラン」のうち幼児教育に係る内容について重点的に加筆し、「子育て夢プラン」を補完するものです。

2. 幼児教育をめぐる動き

(1) 次世代育成の総合的な取組

急速に少子化が進むとともに、共働き家庭やひとり親家庭の増加、土日就業や就労形態の多様化などが進んでいます。このような中で、「次世代育成支援対策推進法」が施行され、国は「子ども・子育て応援プラン」（平成17～21年度）を策定しています。一方、県・市町村においても次世代育成支援行動計画を策定して、次のようなことについて計画的な取組を進めています。

- ① 若者の自立とたくましい子どもの育成
- ② 仕事と家庭の両立支援と働き方の見直し
- ③ 生命の大切さ、家庭の役割等についての理解
- ④ 子育ての新たな支え合いと連帯
- ⑤ 待機児童ゼロ作戦のさらなる展開や乳児保育など保育サービスの充実、地域での子育ての支援や児童虐待の防止体制

(2) 幼保一元化と幼保小連携の流れ

核家族化の進行や地域コミュニティの希薄化、交通事故や児童を取り巻く犯罪の多発、テレビ・ゲーム遊びの増大など、子どもを取り巻く環境は大きく変わっています。そのため、保育園や幼稚園において、子どもの集団遊びを通じた社会性を養う教育など、幼児教育の役割はますます大きくなってきています。

これまで、保育園と幼稚園とでは別々に保育・幼児教育が行われていましたが、近年、保育園・幼稚園での保育・幼児教育を一体として一貫したサービスの提供の必要性が指摘されてきました。これを受けて、国では平成18年に保育園と幼稚園の機能を合わせ持った「認定こども園」制度を設け、全国で約1,000施設の整備を目指しています。

また、小学校入学時に児童が落ち着いて授業に取り組めない、いわゆる「小1問題」が課題となっています。その解決に向けて小学校と「幼・保」の連携の取組が広がっており、文部科学省ではモデル校を指定し、研究が進められています。

(3) 市町村合併への対応

市町村合併に伴い、保育・幼児教育サービスや施設配置の調整が求められるとともに、合併10年後からは、地方交付税の削減と職員数の大幅なスリム化が求められるため、効率的な行政運営が課題となっています。

このような中、施設の統廃合、幼稚園の「認定こども園」化、公営保育園の民営化、診療所と連携した病児・病後児保育の実施、PFI¹による保育園整備などについて、地域の実情にあわせた取組が進められています。

¹ プライベート・ファイナンス・イニシアティブのことで、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金や経営力・技術力を活用して行う手法で、より効率的・効果的な公共サービスの提供と事業コストの削減を目指します。

(4) 地方分権に伴う独自施策の推進

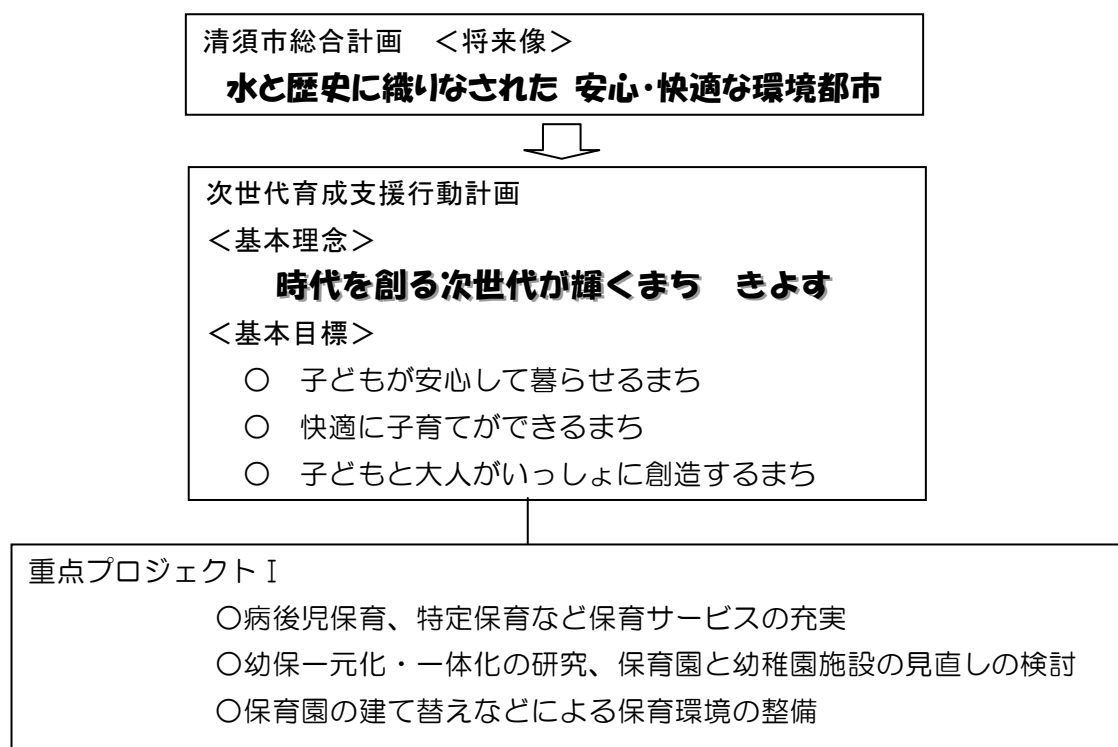
地方分権の推進に伴い、保育所運営費の国庫負担金の一般財源化が行われるとともに、住民からは保育サービスの拡大が求められており、市町村の責任と負担が高まっています。また、学校選択制や小中一貫教育の導入、学校裁量でできる総合的学習の導入、必要最低限の基準である新学習指導要領を超えた独自カリキュラムの設定など、規制緩和により、個性的な教育の取組も見られます。

この地方分権に対応し、効果的・効率的な保育・幼児教育を推進するために、市町村が地域の実情にあわせて「教育ビジョン」「教育プラン」などを定め、幼児から小中学生まで一貫した教育を推進する取組が求められています。

3. 本市の概要

(1) 上位・関連計画

- ① 本市は、平成 17 年 7 月に西枇杷島町、清洲町、新川町が合併して誕生し、「水と歴史に織りなされた 安心・快適な環境都市」を将来像とする総合計画（平成 19～28 年度）を定め、まちづくりを進めています。
- ② 関連計画としては、旧 3 町で平成 17 年 3 月に、「時代を創る次世代が輝くまち きよす」を将来像とする次世代育成支援行動計画「子育て夢プラン」（平成 17～21 年度）を策定しています。



病後児保育：病気の「回復期」に一時的に預ける保育
特定保育：週に 2、3 日の保育を必要とする児童を保育

(2) 立地条件

- ① 本市は、東部及び南部は名古屋市に隣接し、北部は稲沢市及び春日町、西部は甚目寺町に接しています。
- ② 東西約 5km、南北約 5.5km のコンパクトな市です。海拔 10m 未満の平坦な地形で、庄内川、新川、五条川などの河川が流れ、東海集中豪雨の時には、大きな被害を受けています。
- ③ J R 東海道本線、名鉄名古屋本線・犬山線・津島線及び東海交通事業城北線の鉄道網、東名阪自動車道、国道 22 号、国道 302 号などの道路網により、周辺都市との利便性が図られています。
- ④ 市域は 3 つの河川と幹線道路、大規模工場などによって生活圏が区切られています。

(3) 歴史

- ① 本市は、東海地方最大の環濠集落である朝日遺跡に示されるように、その歴史は弥生時代までさかのぼります。戦国時代には織田信長の拠点として尾張の中心地として栄えました。名古屋築城後は、名古屋の青物市場として330年以上も続くなど、流通の中心地でした。
- ② 近代に入ると、JR東海道本線、名鉄線の鉄道網や、東名阪自動車道、国道22号、国道302号などの道路網が整備され、大規模工場が立地するとともに、各駅周辺に住宅立地が進みます。

(4) 人口・世帯数

- ① 平成17年の国勢調査人口は55,038人で、昭和30年代から40年代前半に大幅に人口は増加しましたが、昭和45年以降は微増減を繰り返しています。
今後の変動要因としては、既存戸建て住宅地での幼児数が減少に向かう一方、土地区画整理や枇杷島駅東地区などでの住宅立地、新たな移転工場が出た場合の跡地へのマンション立地などによる増加の可能性があります。
- ② 世帯数は20,644世帯で増加を続け、一方、1世帯当たり人員は減少し、平成12年には2.8人で、核家族化と単身化が進んでいます。

(5) 産業・就業者

- ① 農業産出額（平成14年農林水産統計）7.2億円で、野菜が約72%を占めています。工業（平成14年工業統計）は事業所数210、従業者数8,621人、製造品出荷額等3,529億円で、大規模工場が立地しています。小売業（平成16年商業統計）は、事業所数505、従業者数3,048人、商品販売額は437億円で増加傾向です。
- ② 平成17年の国勢調査によると、市内に住む就業者は28,653人で、市内での就業者は11,185人(39.0%)、名古屋市への通勤が10,438人(36.4%)で、名古屋市のベッドタウン化が進んでいます。

4. 保育・幼児教育の状況

(1) 保育園・幼稚園の現状

1) 保育及び教育内容

- ① 各園の幼児教育・保育方針等をみると、清洲地区は5園共通した年齢別の保育目標を掲げています。新川地区は共通の「理想の子ども像」を掲げたうえで、各園で具体的な子ども像を掲げています。西枇杷島地区では、「子ども像」を掲げるとともに、保育園では年間目標として年齢別の具体的な保育目標を明示しています。

図表 1 各園の教育・保育の目標・方針等

地区	施設名	主な卒園後の小学校	教育内容（園目標、保育方針等）
西枇杷島地区	第1幼稚園	古城	○明るく 元気な やさしい子 ・健康でたくましい子 ・思いやりのある子 ・感じたこと考えたことを自分なりに表現できる子
	第2幼稚園	西枇杷島	
	西枇杷島保育園	古城・西枇杷島	<p><子ども像> 自分で考えて行動できる子 ・健康でたくましい子ども ・明るくのびのびした子ども ・意欲的に行動する子ども ・友だちと共感しあう子ども</p> <p><年間目標>※概略 ・9か月：信頼関係を深めるようスキンシップを大切にされた保育 ・1歳児：自分でできた喜びを大切にされた保育 ・2歳児：友だちとの関わりをじっくりと伝え、先生や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを伝える。 ・3歳児：じっくりと遊びこめる環境を大切にしながら、遊びの世界を広げていく。 ・4歳児：自分でやろうとする力をつけ、自己主張する子どもたち一人ひとりに寄り添う保育を行う。 ・5歳児：友だちや保育士と一緒にいろいろな行事に取り組み、達成感を味わい、自信につなげる保育を行う。また、就学に向けて、おおきくなった喜びを共有できる保育を行う。</p>
清洲地区	本町保育園	清洲東	<p>(保育目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく たくましく 思いやりのある子ども ・8、9、10か月児：きげんよく動きまわる子ども ・1歳児：きげんよく遊ぶ子ども ・2歳児：よく遊べる子ども ・3歳児：よく遊び自分のことは自分でやろうとする子ども ・4歳児：友達と遊べ、何でもやろうとする子ども ・5歳児：すすんで友達と遊び思いやりのある子ども
	一場保育園	清洲	
	廻間保育園		
	新清洲保育園		
	朝日保育園	清洲東	

新川地区	須ヶ口保育園	新川	<p><理想の子ども像></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生き生きとたくましく行動できる子ども ○ともだちを大切にし、対等にあそぶ子 ○素直な心で受けとめ、感動できる子ども ○物事を深くみつめ、追求する子ども 	<p><須ヶ口保育園の子ども像></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康で丈夫な子ども ・友達とよく遊ぶ子 ・自分の思ったことが話せる子
	土器野保育園			<p><土器野保育園の子ども像></p> <ul style="list-style-type: none"> ・丈夫な子 ・あそびこける子 ・自分で考えて行動できる子 ・友だちを大切にする子 ・意欲のある子
	桃栄保育園	桃栄		<p><桃栄保育園の子ども像></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な子 ・自分で考え行動できる子 ・友だちを大切にする子 ・意欲的に行動できる子 ・感動できる子
	星の宮保育園	星の宮		<p><星の宮保育園の理想の子ども像></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な子ども、清潔に心がける、薄着を意識する ・友達とよく遊ぶ子ども ・よく考え行動する子ども ・自分の意志を豊かに表現する子ども

資料：保育園のしおり、幼稚園経営案

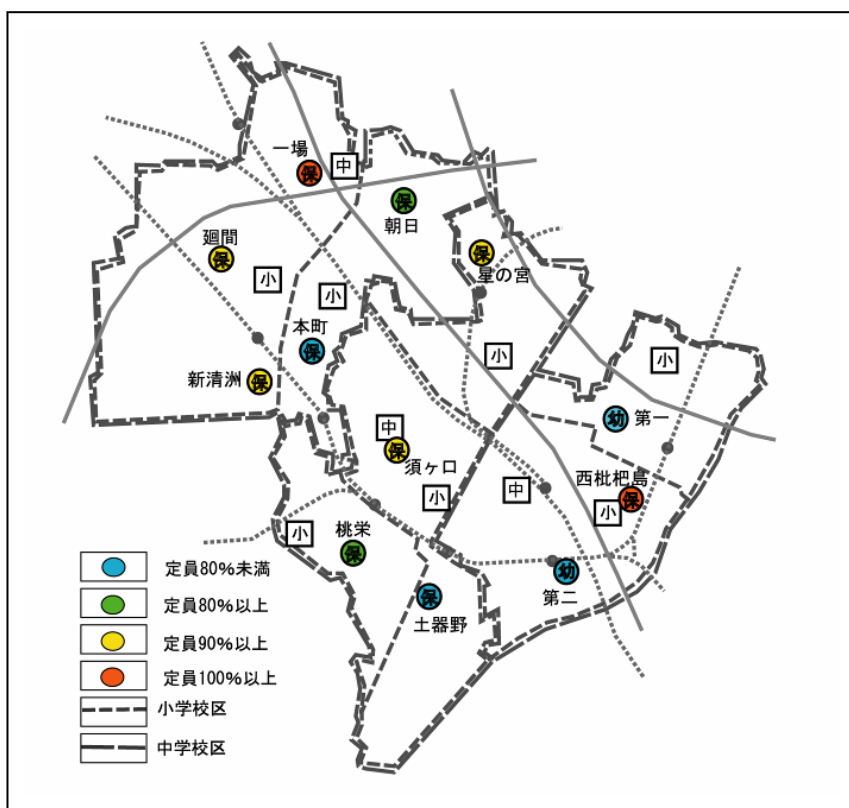
2) 保育園・幼稚園の概要

- ① 市内には、保育園 10 園（定員 1,340 名）と幼稚園 2 園（定員 520 名）があります。幼稚園は西枇杷島地区に第 1 幼稚園、第 2 幼稚園があり、新川地区、清洲地区にはありません。
- ② 保育園の定員は、本町保育園・一場保育園・新清洲保育園・朝日保育園・土器野保育園の 5 園が 120 名、西枇杷島保育園 130 名、星の宮保育園 140 名、須ヶ口保育園と桃栄保育園が 150 名、廻間保育園は 170 名です。一方、幼稚園の定員は、第 1 幼稚園 250 名、第 2 幼稚園 270 名です。
- ③ 定員を超えているのは星の宮保育園（108.6%）で、西枇杷島保育園（101.5%）、一場保育園（100.8%）、廻間保育園（101.2%）、須ヶ口保育園（100.0%）は、ほぼ定員どおりです。定員に満たないのは、土器野保育園（77.5%）、朝日保育園（80.8%）、本町保育園（82.5%）、桃栄保育園（91.3%）です。
- 第 1 幼稚園（56.7%）、第 2 幼稚園（49.2%）は定員に達していません。
- ④ 新清洲保育園を除き、他の 9 園では 0 歳児から受け入れています。また、一時保育は西枇杷島保育園・本町保育園・桃栄保育園で実施しています。

図表 2 建物概要と入園児の状況

項目 園名	建物概要			園定員 入園率	園児数 構成率 クラス数	年齢別					特別保育		あずかり保育	併設施設等	
	敷地面積	定員1人あたり	構造・階			0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	一時保育			延長保育
	建物延面積	定員1人あたり	建築年月			1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス				
第1幼稚園	2,889㎡	10.7㎡	RC・2	270人	153人	—	—	—	52人	63人	38人				
	1,323㎡	4.9㎡	S45.2	56.7%	100.0%	—	—	—	34.0%	41.2%	24.8%				○
第2幼稚園	1,694㎡	7.1㎡	RC・2	250人	123人	—	—	—	44人	39人	40人				
	1,160㎡	4.6㎡	S48.8	49.2%	100.0%	—	—	—	35.8%	31.7%	32.5%				○
西枇杷島保育園	1,832㎡	14.1㎡	RC・2	130人	132人	5人	15人	22人	31人	25人	34人				
	1,229㎡	9.5㎡	S60.3	101.5%	100.0%	3.8%	11.4%	16.7%	23.5%	18.9%	25.7%	○	○		
本町保育園	3,257㎡	27.1㎡	RC・2	120人	99人	4人	8人	17人	26人	23人	21人				子育て支援センター
	1,060㎡	8.8㎡	H56.3	82.5%	100.0%	4.0%	8.1%	17.2%	26.3%	23.2%	21.2%	○	○		
一場保育園	2,260㎡	18.8㎡	木造・1	120人	121人	1人	3人	10人	46人	35人	26人				
	531㎡	4.4㎡	S43.4	100.8%	100.0%	0.8%	2.5%	8.3%	38.1%	28.9%	21.4%		○		
廻間保育園	2,593㎡	15.3㎡	軽S・1	170人	172人	4人	15人	12人	53人	45人	43人				
	993㎡	5.8㎡	S47.12	101.2%	100.0%	2.3%	8.7%	7.0%	30.8%	26.2%	25.0%		○		
新清洲保育園	2,069㎡	17.2㎡	S・2	120人	105人	—	—	—	28人	35人	42人				
	947㎡	7.9㎡	S50.4	87.5%	100.0%	—	—	—	26.7%	33.3%	40.0%		○		
朝日保育園	2,290㎡	19.1㎡	軽S・1	120人	97人	1人	6人	6人	27人	19人	38人				
	721㎡	6.0㎡	S51.4	80.8%	100.0%	1.0%	6.2%	6.2%	27.8%	19.5%	39.3%		○		
須ヶ口保育園	3,731㎡	24.9㎡	RC・2	150人	150人	2人	15人	16人	36人	40人	41人				子育て支援センター
	1,252㎡	8.3㎡	S44.1	100.0%	100.0%	1.3%	10.0%	10.7%	24.0%	26.7%	27.3%		○		
土器野保育園	2,086㎡	17.4㎡	S・2	120人	93人	2人	5人	12人	23人	25人	26人				
	876㎡	7.3㎡	S39.6	77.5%	100.0%	2.1%	5.4%	12.9%	24.7%	26.9%	28.0%		○		
桃栄保育園	4,693㎡	31.3㎡	S・1	150人	137人	3人	10人	18人	33人	39人	34人				
	1,342㎡	8.9㎡	S46.7	91.3%	100.0%	2.2%	7.3%	13.1%	24.1%	28.5%	24.8%	○	○		
星の宮保育園	4,045㎡	28.9㎡	S・1	140人	152人	0人	15人	23人	34人	49人	31人				
	1,029㎡	7.4㎡	S53.2	108.6%	100.0%	0.0%	9.9%	15.1%	22.4%	32.2%	20.4%		○		

図表 3 保育園・幼稚園の定員と入園児数の状況



3) 保育サービスの目標と達成状況

平成 17 年度からの次世代育成支援行動計画「子育て夢プラン」の目標と達成状況を見ると、保育所定員と延長保育実施園・一時保育はすでに目標を達成しています。特定保育と病後児保育の目標数のそれぞれ 1 園が達成されていません。

図表 4 次世代育成支援行動計画「子育て夢プラン」の目標と達成状況

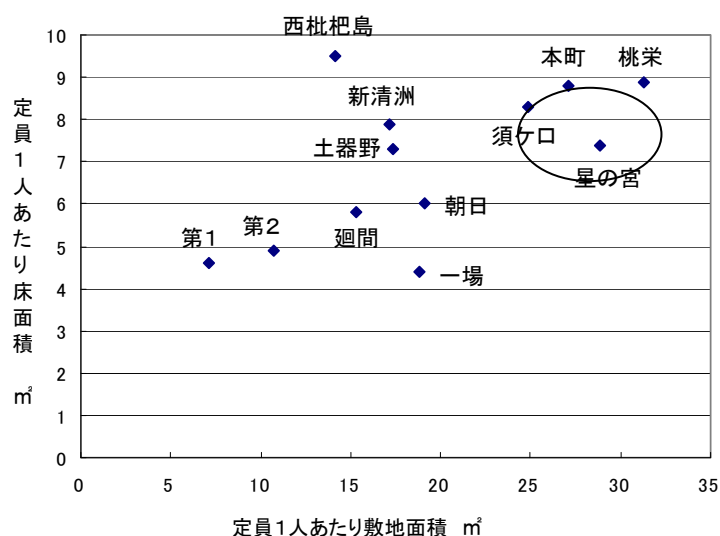
	目標 (21 年度)※	達成状況 (19 年度)
1. 保育園数		10 園
2. 延長保育	5 園	10 園
3. 保育所定員	1,270 名	1,340 名
4. 休日保育		10 園 (土曜日)
5. 特定保育	1 園	—
6. 病後児保育	1 園	—
7. 一時保育	3 園	3 園
8. 地域子育て支援センター		2 か所
9. 幼稚園数		2 園
10. 療育施設		1 園

※目標数は次世代育成支援行動計画「子育て夢プラン」より

4) 施設の現状

- ① 最も古いのは土器野保育園（S39）で、一場保育園（S43）、須ヶ口保育園（S44）、桃栄保育園（S46）、廻間保育園（S47）、西枇杷島第1幼稚園（S45）、西枇杷島第2幼稚園（S48）が昭和40年代に建設されており、老朽化が進んでいます。最も新しいのは西枇杷島保育園（S60）です。
- ② 保育園で、定員一人あたりの建物床面積が狭いのは一場保育園・廻間保育園・朝日保育園、定員一人あたりの敷地面積が狭いのは西枇杷島保育園・廻間保育園・新清洲保育園・土器野保育園です。建物床面積・敷地面積とも広いのは、桃栄保育園・星の宮保育園・本町保育園・須ヶ口保育園です。

図表 5 保育園・幼稚園の定員あたりの床面積と敷地面積



- ③ わが国は地震の活発期に入っており、東海・東南海地震などの巨大地震が心配されています。一場保育園・廻間保育園・新清洲保育園・朝日保育園・須ヶ口保育園の5園において、適切な耐震補強等の措置が必要です。
- ④ 建設年次の古い老朽化した施設では、屋根からの漏水、鉄部塗装の剥落、コンクリート外壁のひび割れ、壁のはがれ、フローリングの摩耗、便所の仕切板の腐朽、臭う便所、屋外の洗面台、洗面台のタイルの汚れ、危険なコンクリート角部分、アルミサッシ戸の隙間などが見られます。
- ⑤ 地球温暖化と都市のヒートアイランド化が進む中で、都市化により施設周辺が建て詰まり、通風が遮られて夏の暑さが厳しい部屋も多く見られます。

(2) 保育園・幼稚園の配置

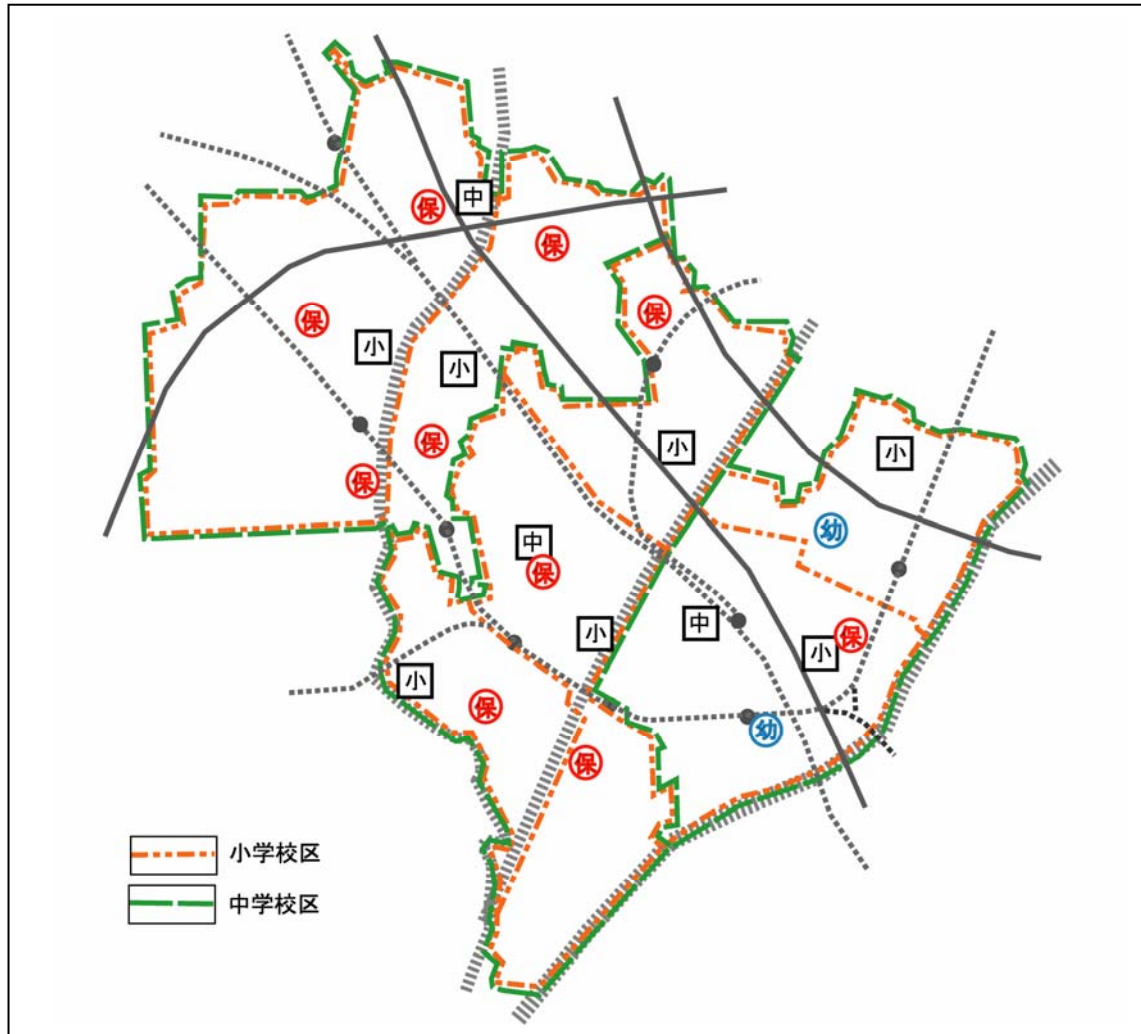
- ① 500mを徒歩圏としてみると、いくつかの保育園が重なっています。
- ② 幼稚園は西枇杷島地区に2つあり、新川地区、清洲地区にはありません。

図表 6 保育園・幼稚園の分布



- ③ 小学校区と保育園の関係は、清洲小学校区に一場保育園・廻間保育園・新清洲保育園、清須東小学校区に本町保育園・朝日保育園、新川小学校区に須ヶ口保育園・土器野保育園があり、古城小学校区にはなく、西枇杷島小学校区・桃栄小学校区・星の宮小学校区は1校区1園です。

図表 7 保育園・幼稚園の分布と学区の関係



5. 保育・幼児教育への保護者のニーズ

(1) グループインタビュー調査での主な意見

1) 調査の概要

全保育園と幼稚園の代表者、3つの児童館・児童センター、2つの子育て支援センター利用者、2つの子育てグループ・支援団体に対し、平成19年7月20日、8月1日、2日の3日間、グループインタビュー調査を実施しました。

2) 意見の概要

① 保育園について

- 入園前においては、保育園と幼稚園の違いについて理解していないなど、情報提供を求める声が多くあります。
- 保育園には、病後児保育や仕事が休暇の時など、柔軟な対応を求まる声があります。
- 保育内容については、地域交流や他園との交流、園内での縦割り保育、体験の機会の充実、男性保育士の配置、アレルギー対応など給食の充実を求める声や、市内の園の水準の差を無くすとともに、各園の特徴づくりを求める声があります。
- 保育園における教育については、「あまり勉強を気にすることなくのびのびと」という意見と、「ある程度の勉強は必要」という意見に分かれています。
- 園庭や遊戯室の狭さ、老朽化対応、耐震化、送迎の為の駐車場の整備や、防犯対策を危惧する声があります。
- 療育環境として、職員や専門職の充実、他地区での設置、園庭の安全確保、給食の検討、保育園や幼稚園との交流、地域交流や地域での支援などを求める声があります。

② 幼稚園について

- 「子ども同士、親同士が地域で交流できる」ということが、私立にはないよさとしてあげられています。
- 「保育園と変わらない」という意見など、基礎的な教育内容の充実を求める声が多くあがっています。また、民間幼稚園の様な特色づくりが求められています。
- 「新川、清洲にも欲しい」という声が見られます。
- 立地上、災害時等の対応について心配する声や、「園庭が狭い」という意見があります。

③ 認定こども園について

- 内容がわからない、という声が多いものの、近ければ入れたい、という声も見られます。
- 自然体験など、保育園における取り組みを基本とした運営を求める声が多くあり、幼稚園でも、保育時間の延長や選択できる環境が求められています。
- 幼保一元化よりも、民間保育園、幼稚園を含めて、選択肢を広げることが必要との声も聞かれます。

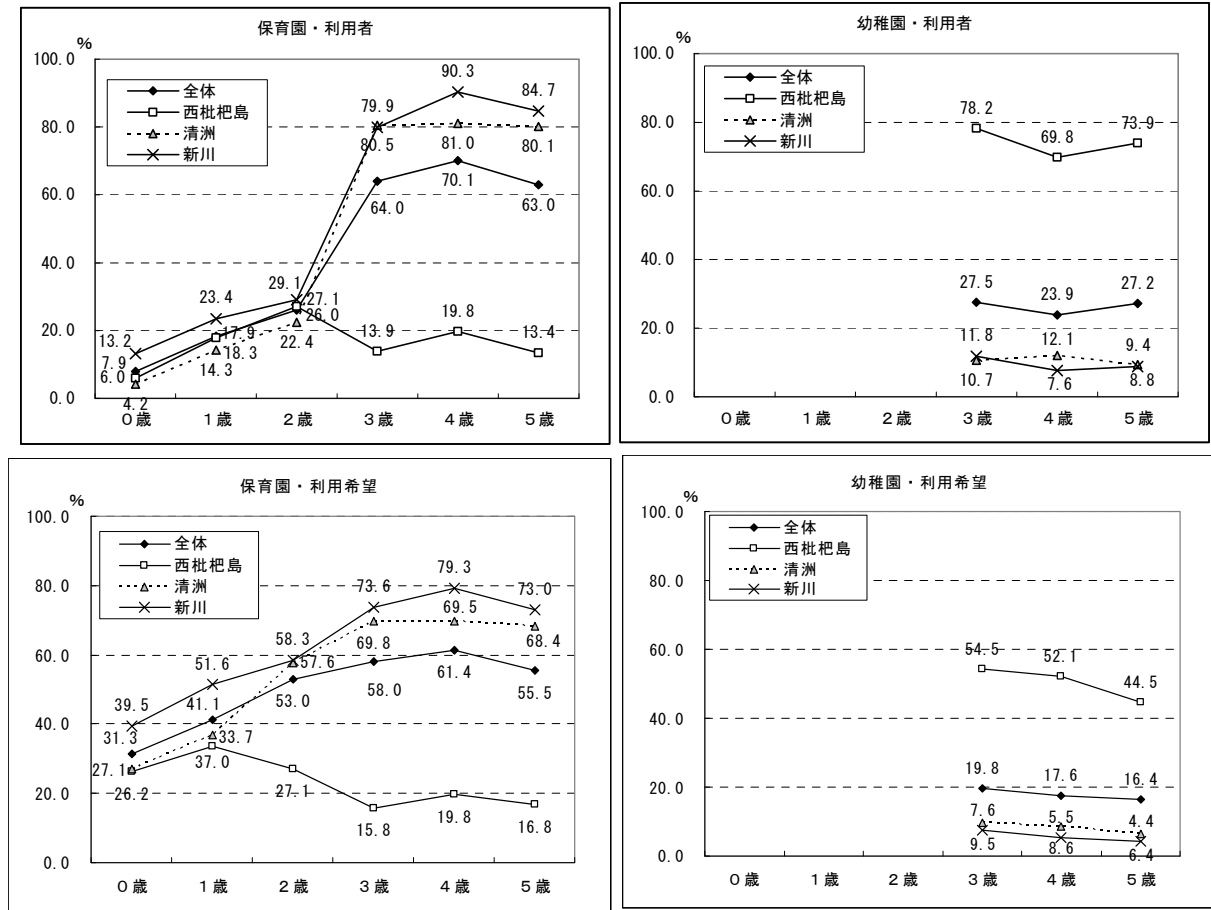
④ 小学校との連携について

- 保育園や幼稚園と、小学校との連携の強化を求める声が多くあります。

(2) 保育園・幼稚園の利用意向 ～次世代支援行動計画アンケート調査より～

- ① 保育園の利用希望率をみると、現に利用している割合と比較して、2歳児以下の利用希望が高くなっています。

図表 8 保育園・幼稚園の利用状況・意向



資料：次世代育成支援行動計画アンケート（平成15年度）

- ② 利用希望率を利用率で割ると、保育園では0歳児4.0倍、1歳児2.3倍、2歳児2.0倍と高く、3～5歳児では0.9倍になります。一方、幼稚園は3・4歳児0.7倍、5歳児0.6倍であり、幼稚園より保育園の方に利用希望者が多いことを示しています。

今後、施設整備が進むと、乳児を中心に利用者が増える可能性が高いといえます。

図表 9 保育園・幼稚園の利用状況・意向

		保育園					幼稚園			
年齢	歳	0	1	2	3	4	5	3	4	5
A利用率	%	7.9	17.9	26	64	70.1	63	27.5	23.9	27.2
B利用希望率	%	31.3	41.1	53.0	58.0	61.4	55.5	19.8	17.6	16.4
B/A		4.0	2.3	2.0	0.9	0.9	0.9	0.7	0.7	0.6

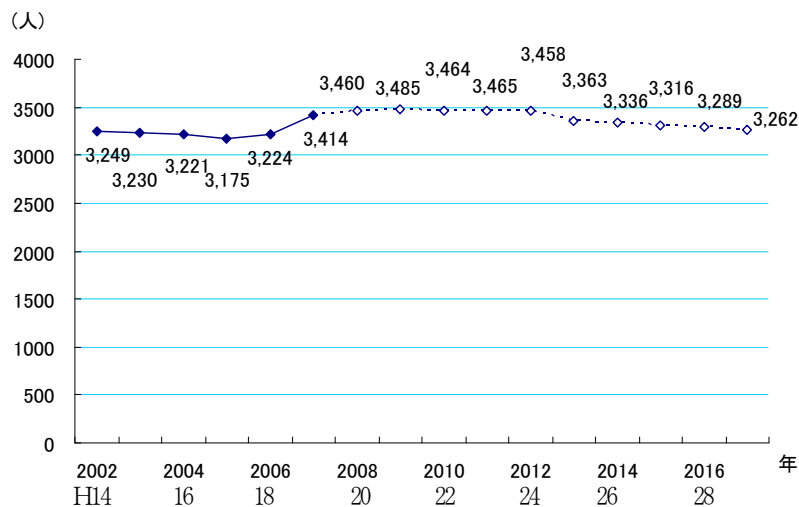
資料：次世代育成支援行動計画アンケート（平成15年度）

6. 乳幼児数・園児数の予測と施設整備の課題

(1) 乳幼児数の推移と予測

- ① 乳幼児数は平成 24（2012）年頃まで横ばいが続き、平成 25（2013）年頃からやや減少になると考えられます。ただし、工場跡地などにマンション立地が進めば増加する可能性があり、動向を注意深く見守る必要があります。

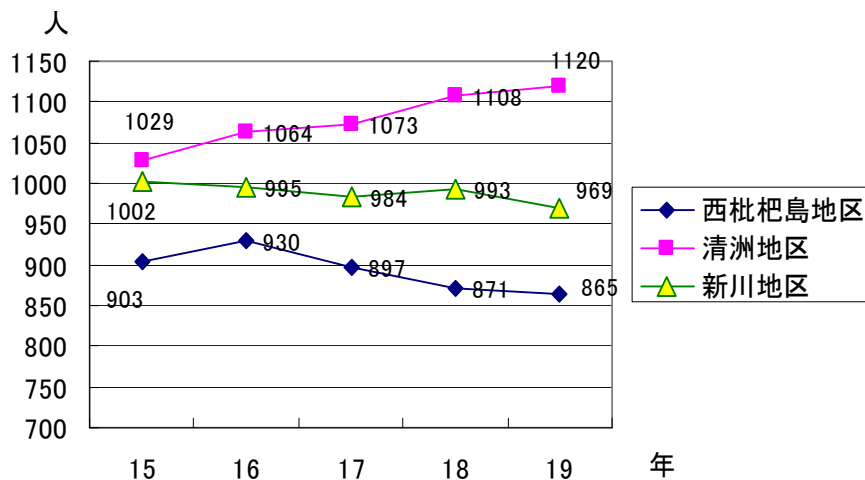
図表 10 0～5歳人口の推移



注：平成 14～19 年の男女 1 歳別の住民基本台帳より推計

- ② 学校基本調査の結果をみても、小学校の児童数は全体では平成 15 年から 19 年にかけて、2,934～2,989 人の間で横ばいですが、清洲地区では増加、新川地区は横ばいから減少、西枇杷島地区は減少傾向です。

図表 11 小学校児童数の推移（学校基本調査）



(2) 園児数の推移と推計

- ① 年齢別の人口に対する保育園の園児数は、3～5歳児が58.3～64.1%に対し、0歳3.4%、1歳16.2%、2歳24.2%で、アンケート結果では0歳31.3%、1歳41.1%、2歳53.0%の希望があり、今後、0～2歳の低年齢児保育のニーズがさらに高まると予想されます。

図表 12 年齢別入所率（保育園園児数／対象年齢人口）と利用希望率

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
人口（H19.4.1）	645人	568人	562人	578人	537人	524人	3,414人
入所数（H19.9.1）	22人	92人	136人	337人	335人	336人	1,258人
入所率	3.4%	16.2%	24.2%	58.3%	62.4%	64.1%	36.8%
利用希望率	31.3%	41.1%	53.0%	58.0%	61.4%	55.5%	

注：利用希望率は、次世代育成支援行動計画アンケート調査（平成15年度）

- ② 保育園の園児数は増加を続け、5年間で11.9%の伸びを見せており、0～2歳では37.9%の伸びです。園児数の乳幼児に占める割合（入所率）は、34.3%から38.7%へと、4.4%増加しています。

平成18年度の定員は1,310人でしたので、園児数の定員に対する充足率は、平成18年度で95%です。

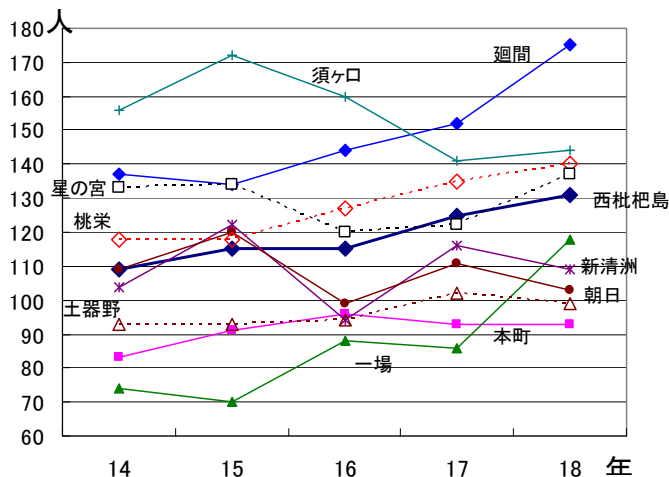
図表 13 保育園の園児数の伸び

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	18/14増加率
保育園園児数	1,116人	1,169人	1,137人	1,183人	1,249人	11.9%
0～2歳園児数	182人	200人	197人	222人	251人	37.9%
乳幼児数	3,249人	3,230人	3,221人	3,175人	3,224人	
入所率	34.3%	36.2%	35.3%	37.3%	38.7%	

園児数は各年度の3月1日の実数、乳幼児数は翌年度の4月1日人口

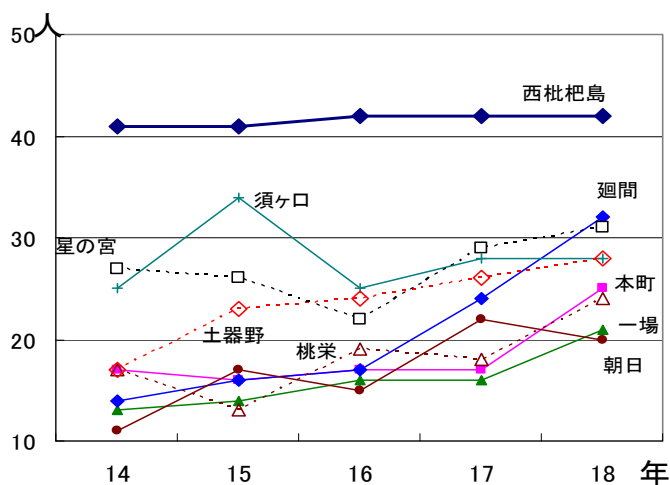
- ③ 園別の園児数の推移をみると、廻間保育園、一場保育園、西枇杷島保育園、桃栄保育園が増加傾向です。

図表 14 各保育園の園児数の推移



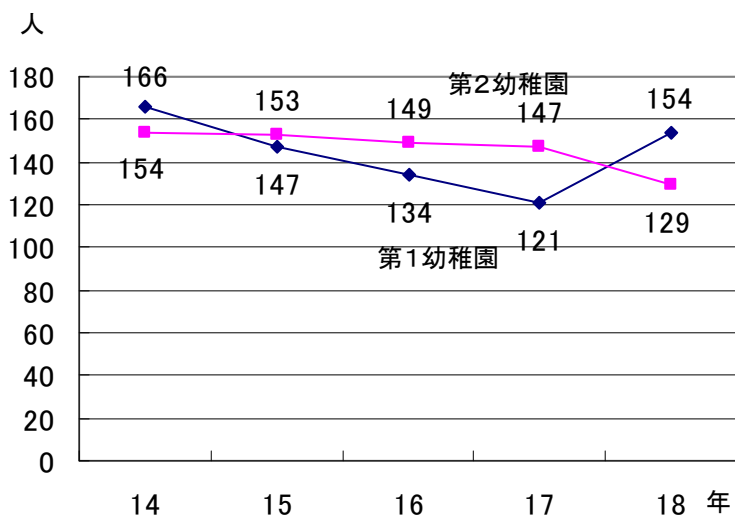
- ④ 各保育園の0～2歳の乳幼児数は、全体的に伸びており、受け入れ態勢が整備されれば、さらに増えると予想されます。

図表 15 各保育園の乳幼児数
(0～2歳)の推移



- ⑤ 幼稚園の園児数は第1幼稚園、第2幼稚園とも減少を続けてきましたが、平成18年は第1幼稚園が増加に転じました。全体としては、減少傾向にあります。

図表 16 幼稚園の園児数の推移



- ⑥ 平成 24 (2012) 年度の園児数 (保育所+幼稚園) を、7 年間で園児の入所率が 3 %あがると仮定して予測すると 1,695 人で、平成 17 年度の園児数 1,464 人より 231 人の増加となります。

仮に、園の規模を 150 人にあげると、11 園が必要であり、180 人規模にすると 9 園が必要です。

図表 17 園児数の伸びの予測

地区	園名	現状			H24(2012)年度予測					
		H17園児数	H17乳幼児数	入所率	乳幼児数予測	補正 (合併後の人口増傾向反映)	園児数 (現状入所率に3%上乗せ)	150人定員での園数	180人定員での園数	
西枇杷島	西枇杷島第1幼稚園	157人	881人	46%	655人	812人	399人	2.7園	2.2園	
	西枇杷島第2幼稚園	124人								
	西枇杷島保育園	125人								
清洲	本町保育園	93人	1,253人	45%	1,222人	1,515人	719人	4.8園	4.0園	
	一場保育園	86人								
	廻間保育園	152人								
	新清洲保育園	116人								
	朝日保育園	111人								
新川	須ヶ口保育園	141人	1,041人	48%	913人	1,132人	577人	3.8園	3.2園	
	土器野保育園	102人								
	桃栄保育園	135人								
	星の宮保育園	122人								
合計		1,464人	3,175人	46%	2,790人	3,458人	1,695人	11.3園	9.4園	

- ⑦ 今後、乳児保育、病児・病後児保育、特定保育、休日保育などへのニーズが高まると予想され、乳児保育や病児・病後児保育などの拡充のためには施設拡張が必要となります。

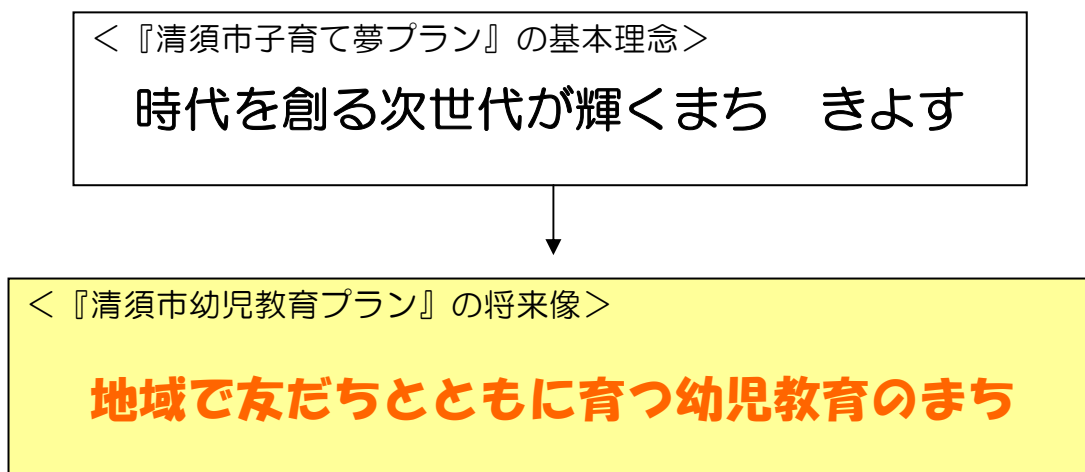
7. 幼児教育の将来像と基本方針

(1) 幼児教育の将来像

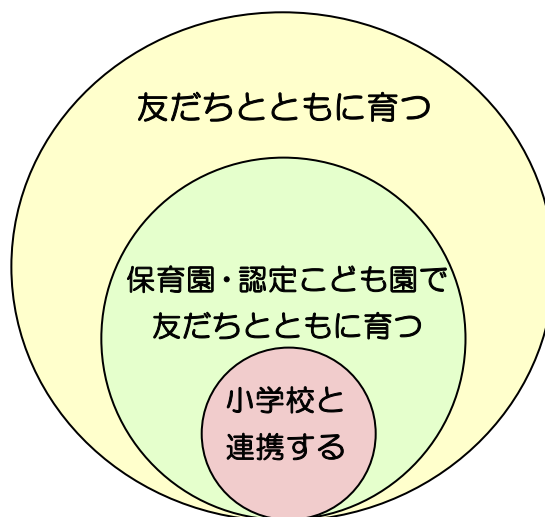
市の将来像「水と歴史に織りなされた 安心・快適な環境都市」、『子育て夢プラン（次世代育成支援行動計画）』の基本理念「時代を創る次世代が輝くまち きよす」を受けて、子ども達が地域の中で様々な集団遊びや体験、学習を通して友だちとともに育ち、充実した豊かな乳幼児時代を過ごし、仲良く小学校に通えるよう、本計画の将来像を、「**地域で友だちとともに育つ幼児教育のまち**」とします。

そのため、保育園と認定こども園により、それぞれの特質を活かしながら幼児教育の充実とともに、小学校の授業にスムーズに移行できるよう「幼保小連携」（保育・幼児教育と小学校教育の連携）の強化をめざします。

また、以上のことを踏まえ、効果的・効率的な施設整備・運営をめざします。



図表 18 地域で友だちとともに育つ幼児教育のまち



(2) 幼児教育の基本方針

1) 保育園と幼稚園機能を持つ認定こども園で幼児教育を進める

- ① 幼稚園機能を持つ認定こども園の整備を3地区で図り、地域の個性を生かしながら、全ての幼児に対し、保育園と認定こども園において幼児教育の充実を図ります。
- ② 集団での遊びや様々な体験などを通して、幼児の自ら学ぶ基礎（食育、集団活動、知的関心・興味など）やコミュニケーション能力などの充実をめざします。
- ③ 認定こども園において、統一した幼児教育のカリキュラムの研究を進めるとともに、他の保育園との交流を図り、全ての幼児に対する教育の充実をめざします。
- ④ 保育園は市長部局の健康福祉部、幼稚園は教育委員会という行政組織の縦割りの解消を図り、連携の強化と行政効率化を図ります。

2) 子どもを地域で育てる

- ① 子ども達が地域の保育園・認定こども園に通うことができ、集団遊びや体験活動、基礎的な学習活動などを通して友だちとともに育つ幼児教育をめざします。
- ② 保育園・認定こども園に園と親、親同士の交流スペースを確保し、子育て中の親のコミュニティづくりを進めます。また、食育をはじめ基礎的な生活習慣の向上など、家庭の教育力向上を支援します。
- ③ 保護者同士の交流や親子の遊びなどを通して、子育てが楽しいと感じられる地域づくりを進め、子育て不安の解消を図るとともに、児童虐待防止などの子育て支援に取り組みます。
- ④ 地域住民の子育てコミュニティづくりを支援し、幼児が集団遊びを通じたコミュニケーション能力や体力の向上、様々な体験を通じた知的な関心・興味を高めることができる環境づくりをめざします。

3) 小学校との連携を推進する

- ① 子どもたちが小学校で適切な学校生活を送り、「小1問題（小学校1年のつまづき。学ぶ意欲の低下、学級崩壊や不登校等）」の発生することがないように、保育園・認定こども園と小学校との連携を図ります。
- ② 療育施設での療育、保育園での障害児保育と小学校の特別支援教育との連携を図り、障害児への適切な支援に取り組みます。また、児童デイサービスとの連携などについて研究します。
- ③ 小学校の整備にあわせ、幼稚園児と小学生の日常的な交流による教育効果を考え、幼小連携のモデルとなる認定こども園と小学校の一体的な整備（合築）を研究します。

4) 多様な就労形態の保護者の子育てを支援する

- ① 子育てしながら働き続ける男女、核家族・ひとり親家庭が増えることが予想されます。また、休日出勤や夜間労働など、就業が不規則化・多様化しています。そのため、特別保育（乳児保育、延長保育、夜間保育、休日保育、特定保育、障害児保育、病児・病後児保育など）の充実をめざします。

5) 効果的・効率的な施設整備・管理運営を進める

- ① 限られた予算の中で、幼児教育と特別保育などの充実を図るため、施設の統廃合、担当課の統合など管理体制のスリム化、社会福祉協議会・NPO法人等による民営化の研究など、施設整備・管理運営体制の効率化を検討します。

【図表 19 幼児教育プランに対応した空間構成イメージ】

◆ゾーニング・プランの基本的考え方

○病後児保育室(■)

- ・入園児への感染予防などに配慮して2階に配置。
- ・管理部門(職員室)と近い位置に配置。

○コミュニティスペース(■)

- ・子育てコミュニティを支援する交流のスペースを設置。

○保育室

- ・3歳未満児の対応の強化(保育室増築)。

○管理部門(職員室)

- ・保育室全体を見渡せる位置に配置。
- ・登園・降園時に保護者が通る動線上に配置。

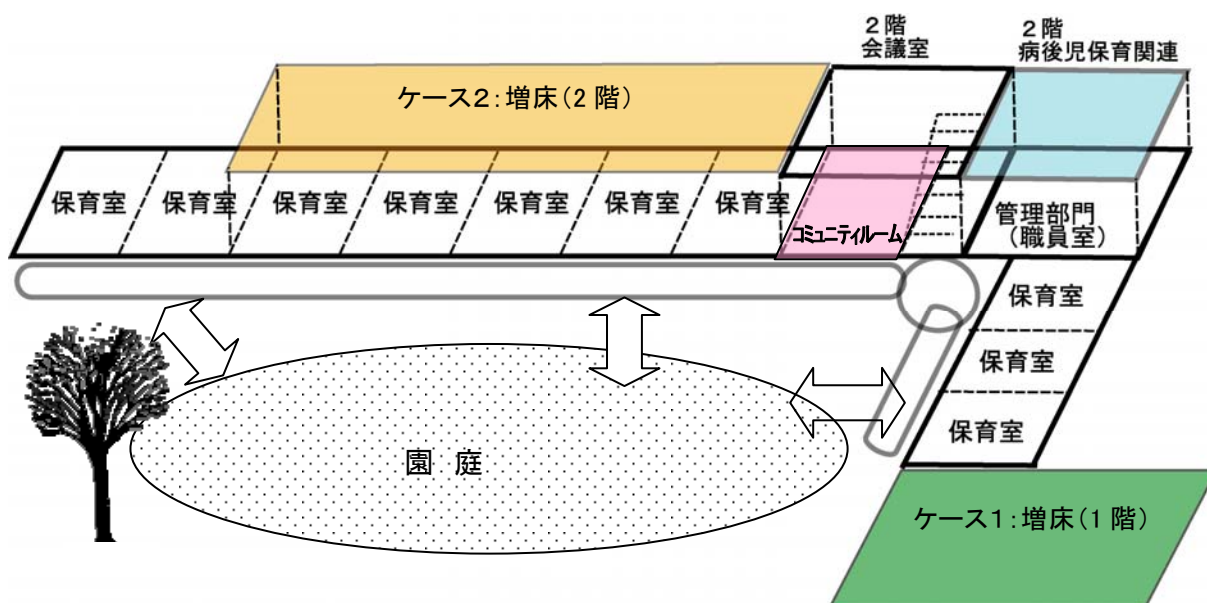
◆保育室増床の方向性について

○ケース1:平屋建てを基本とするプラン

- ・園庭の一部に増築。(■)

○ケース2:園庭をできるだけ広く利用するプラン

- ・2階部分に増床(建て替え)。2階分については、保育室は、0歳児など。(■)



(3) 保育園・幼稚園・認定こども園の特徴

保育園・幼稚園と認定こども園の特徴を整理すると、次のとおりです。

図表 20 保育園・幼稚園・認定こども園の特徴

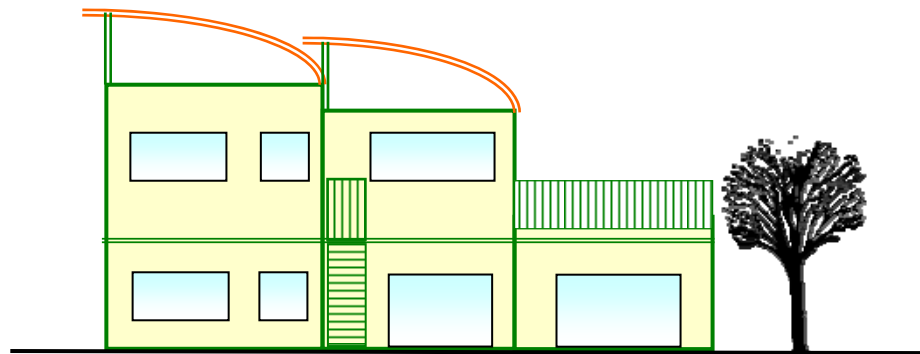
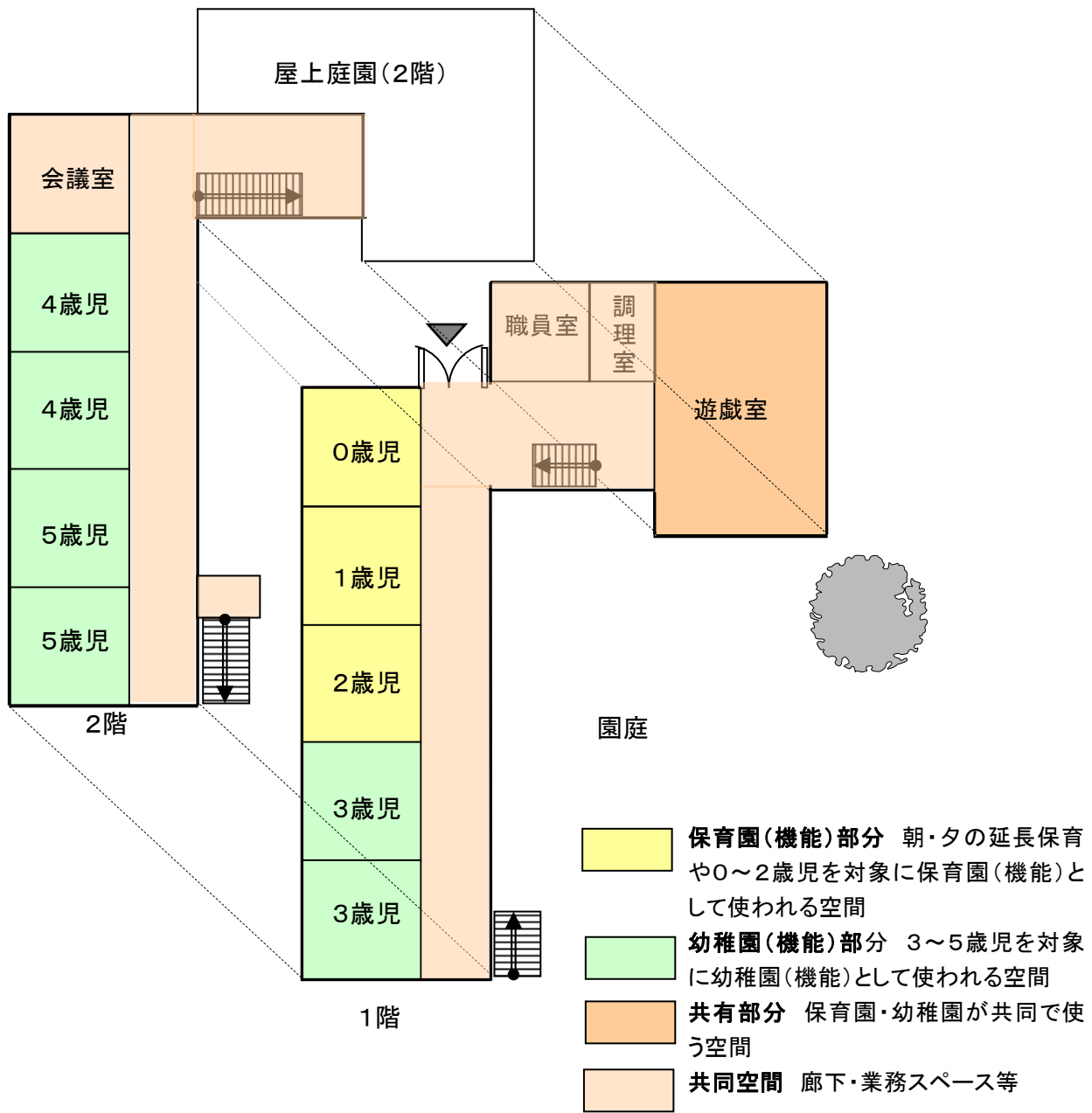
区分	目的	対象児	保育時間	保育料	備考
保育園	保育に欠ける児童を保育	0歳～就学前	平日 8時～16時 (延長は 7時 30分～8時、16時～19時)	応能負担 (清須市の場合、月平均 20,000円)	病児・病後児・一時保育などの対応
幼稚園	3歳から就学前までの幼児教育	3歳～就学前	平日 9時～14時 (預かりは 14時～17時)	応益負担 (清須市の場合、月額 6,100円+給食費 3,400円)	土曜、夏季、冬季、学年始、学年末はお休み
認定こども園	保護者の就労などの事情に関わらず一体的に保育・幼児教育を実施	0歳～就学前	保育園、幼稚園の両方に対応できる時間帯	認定こども園として保育料を設定	地域における子育て支援を行う機能を有する

図表 21 認定こども園の保育時間の選択

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
7時半～8時	延長保育					
9時～	通常保育					
9～14時(幼稚園教育時間)						
～16時	延長保育					
16～19時						

一体的に幼児教育を実施

【図表 22 認定こども園の空間構成イメージ】



図表 23 認定こども園についてのQ & A

問 (Question)	答え (Answer)
Q 1. 認定こども園はどのような経過でできたのですか？	<p>働き続ける女性が増え、保育園が不足する一方、幼稚園が定員割れする中で、幼保一元化の機運が高まり、平成 15 年の構造改革特区申請では各地の市町村から申請がなされ、幼児園などが実現してきました。</p> <p>これに対し、国では、厚生労働省と文部科学省の反対などにより、保育園と幼稚園とは別に、両方の機能を持った総合施設を発足させることになり、平成 18 年に就学前教育保育等推進法が成立し、認定こども園が生まれました。</p>
Q 2. 全ての保育園、幼稚園が認定こども園に変わるのですか？	<p>本市では全ての園が認定こども園に変わるのではありません。西枇杷島地区の 2 幼稚園を統合して認定こども園に変えるとともに、幼稚園がなかった他の新川地区・清洲地区に認定こども園を設けるものです。</p>
Q 3. 幼稚園はなくなるのですか？	<p>幼稚園という名前はなくなりますが、現在と同じ時間、幼児教育を進める場として、認定こども園に変わります。</p>
Q 4. 認定こども園の規模や配置、園児の内訳などはどうなるのですか？	<p>認定こども園の具体的な内容は、「認定こども園実施検討委員会」を設け、検討していきます。</p>
Q 5. 認定こども園での保育はどうなりますか？	<p>幼稚園と違って、0～2 歳児の保育を行うとともに、3～5 歳児では、保育園と同じ長時間のクラスもできます。</p>
Q 6. 認定こども園での保護者行事や P T A 活動などはどうなりますか？	<p>保護者が働いている人と、そうでない人が、どのように参加できる体制にしていけばいいのか、クラス編成などのあり方を含めて、今後、「認定こども園実施検討委員会」において検討を進めます。</p>
Q 7. 認定こども園の保育料はどうなりますか？	<p>清須市では、幼稚園の場合、月額授業料 6,100 円＋月額給食費 3,400 円に対し、保育園の場合、月額平均保育料約 20,000 円であり、アンバランスな状態です。今後、どうするかは、「保育料等検討委員会」で検討してまいります。</p>
Q 8. 認定こども園ができることによって、保育や幼児教育はどう変わりますか？	<p>0～2 歳児の待機児童への適切な対応が図られます。</p> <p>また、認定こども園において、3～5 歳児には同じ時間、幼児教育が行われ、その実践を受けて、他の全ての保育園においても、単に託児を行うだけでなく、3～5 歳児の幼児教育の充実を図ります。</p>
Q 9. 認定こども園の運営主体はどうなりますか？	<p>今後、「認定こども園実施検討委員会」「保育園民間委託研究会」を設け、研究します。</p>

8. 施設整備および管理運営方針

(1) 施設整備の基本方針

1) 幼児教育の充実に向けた施設整備

- ① 乳児保育や病児・病後児保育などの拡充にむけて、保育室の確保など、必要な施設整備を図ります。
- ② 地域で子どもを育て、幼保一元化により全ての幼児への教育の充実を図るため、「1地区2幼稚園」体制から、2か所の幼稚園を統廃合して「3地区各1認定こども園」体制への移行を図ります。また、認定こども園で実践された幼児教育の内容を、他の保育園へ波及を図ります。
- ③ 「小1問題」が派生することがないように、「幼保小連携」を充実していきます。その実践のモデル施設として、小学校整備と連携し、小学校併設の認定こども園の整備を研究します。

2) 維持更新投資の重視

- ① 東南海沖地震に備え、全体の施設配置計画を検討しながら、保育園の耐震化を図ります。
- ② 子どもが整備された環境の中で心豊かに過ごせるよう、全体の施設配置計画を検討しながら、老朽施設の計画的な更新を図ります。
- ③ 地球温暖化とともに、都市化によるヒートアイランド化（ビルなどの多い市街地の気温上昇）が進んでいます。入園児の健康に配慮して、保育園・認定こども園での冷暖房の整備を検討します。

3) 効果的・効率的な施設配置と維持・管理

- ① 限られた予算の中で、各種サービスの拡充を図るために、各地区の乳幼児数と入園率の増減に対応し、施設の統廃合と施設配置の見直しを検討します。
- ② 施設のライフサイクルコスト（建設費＋修繕費用）を最小限にできるよう、計画的な修繕を図ります。

4) 長期的な見通しによる施設整備

- ① 乳幼児は、今後、横ばいから減少に向かう一方、今後、女性の就業率が上昇し、保育、特に乳児保育へのニーズがさらに高まることが予想されます。今後の景気動向や団塊世代の大量退職などを考慮に入れ、必要に応じて計画の見直しを行います。
- ② 本市は名古屋都心に近いことから、大規模工場が移転してマンションが立地し、幼児が増える可能性があります。必要に応じて、随時、計画の見直しを行います。

(2) 施設整備の検討パターンと利点・問題点

施設整備の検討に向けて、考えられる主なパターンと、それぞれの利点と問題点を検討すると、次のとおりです。

図表 24 施設整備の検討パターン

検討パターン	共通	整備内容
(1) 保育園 9、認定こども園 3	① 第 1・第 2 幼稚園の統廃合 ② 一場・廻間・新清洲・朝日・須ヶ口保育園の耐震化 ③ 老朽施設（土器野、桃栄、星の宮保育園、第 1・第 2 幼稚園）の計画的な更新 ④ 保育サービスの多様化に伴う増改築	① 園児数が増加する園の拡張が必要。
(2) 保育園 10、認定こども園 3		① 園児数が増加する地区で、新たに施設を整備する。
(3) 保育園 7、認定こども園 3		① 小学校区に合わせて、園を統廃合。 ② 各施設の定員数の増員による施設の拡張、増築が必要。

図表 25 施設整備検討パターンの利点・問題点

検討パターン	利点	問題点
(1) 保育園 9、認定こども園 3	① 園の数・立地を動かさないの で、支持されやすい。	① 各園の適正配置の課題が解消できない。
(2) 保育園 10、認定こども園 3	① 園の数・立地を動かさない ので、支持されやすい。	① 新しい施設のための整備費が必要になる。 ② 整備後に維持・管理費用が増大する。
(3) 保育園 7、認定こども園 3	① 各地区に密着した保育・幼児教育ができる。 ② 維持・管理費用の削減が期待できる。	① 小学校の配置・通学区域の見直しがないと、大規模な園がでてくる。 ② 送り迎えの距離が長くなる保護者がでてくる。

(3) 管理・運営の検討パターンと利点・問題点

保育施設・認定こども園の一般的な管理・運営方法と利点・問題点を整理すると、次のとおりです。

図表 26 保育施設の一般的な管理・運営方法と利点・問題点

管理・運営方法		利点	問題点
1 公設 保育園	(1) 公設 公 営 案 (現 行 案)	① 労働条件がよく、ベテランの保育士の層が厚く、保育の質が保たれている。 ② 園によっては、保護者や行政との連携による意欲的な取組が見られる。 ③ 地域の子育て活動の拠点としての役割が期待できる。	① サービスの多様化が進みにくく、融通がきかない。 ② 横並びで、個性的な取組などは弱い場合が多い。 ③ 人件費負担が大きく、限られた予算のもとでは、新たな事業を始めにくい。 ④ 保護者が過剰な要求を突き出す場合がある。
	(2) 公設 民 営 案 (社会福 祉法人、 NPO、 企業)	① 一般的には、公設公営より、2割強運営費が軽減される。 ② 良いところは、サービスは多様で、融通がきく。 ③ 民間のよいところが、公立の保育園にも波及する効果が大きい。 ④ 社会福祉協議会に運営委託し、雇用の安定化を図る例がある。	① 若い保育士が中心で、保育士の定着が悪く、契約社員の例などもあり、保育の質の低下が心配される。 ② 社協の運営などの場合には、公営よりも、意欲の低い取組になる場合も多い。
2 民営 保育園	(1) 認可 保育園	① 一般的には、公設公営より、3割弱運営費が軽減される（ただし、本市は半数が臨職であり、削減効果はもっと少ない）。 ② 意欲的で歴史のある社会福祉法人など、サービスが多様で融通がきく。	① 新たに土地を購入し、施設を建設して成り立つ可能性はほとんどない（意欲的で、かつ土地所有者である場合に限られる）。
	(2) 自治 体助成の 認可外保 育園（東 京都の認 証保育所 等）	① 一定の基準があり、施設や保育内容の質が保たれ、保育料も上限が決められる。 ② 駅前や家庭で、小規模・少人数で低年齢児を預かるなど小回りがきく。 ③ 小児科診療所に、病後児保育を委託する例も見られる。	① 駅前型はビルの一室で園庭がないなど、条件が悪いところも多い。 ② 地元で意欲的な事業者がいるかどうかである。
	(3) ベビ ーホテル 等	① 夜間保育や 24 時間保育、一時預かりなど、多様な保育が行われている。	① 保育料のみで運営しており、施設・保育内容など、質は様々である。
3 公立 幼稚園	(1) 預か り保育	① 保育料が安い。	① 時間が 17 時までのところが多い。
4 私立 幼稚園	(1) 預か り保育	① 園によって、利用できる時間や曜日、料金などが多様。	

保護者ヒアリング調査と、保育園・認定こども園の一般的な管理・運営方法の利点・問題点をもとに、今後の清須市の管理運営の検討パターンと利点・問題点を整理すると、次のとおりです。

図表 27 清須市における保育園・認定こども園の管理・運営の検討パターンと利点・問題点

検討パターン	利点	問題点
1. 公設公営案 (現行案)	① 市の教育方針などが、現場に伝わりやすい。 ② 全体で、統一的な幼児教育の水準が確保できる。	① 厳しい財政のもとでは、特別保育や幼児教育の充実などが難しい。 ② 競争原理が働きにくいいため、改善が進みにくい。
2. 一部保育園・認定こども園民営化案	① 保護者の選択肢が増える。 ② 競争により、個性的な保育・教育が行われるなど、質的な向上が期待できる。 ③ 公営と民営のよさと問題点を確かめられる。 ④ 財政的な負担が一部減る。	① 園により保育・幼児教育の質の差が生じるようになる。
3. 認定こども園民営化案	① 多様な、質の高い幼児教育の提供が期待できる。 ② 財政的な負担が軽減できる。	① 市が幼保一元化教育の現場に直接タッチしないことにより、指導が不十分になる。
4. 全保育園・認定こども園民営化案	① 民間感覚の、きめ細かなサービスが期待できる。 ② 競争により、個性的な保育・教育が行われるなど、質的な向上が期待できる。 ③ 財政的な負担が減り、保育サービスの充実に向けた取組ができる。	① 民間のゆとりのない経営のもとで、保育・教育内容の質的低下がおきる可能性がある。 ② 市が現場にタッチしないことになり、市民意向を把握できず、民間事業所への指導が不十分になる。
5. 一部保育サービスを民間委託 ※	① 民間の資源を利用でき、財政負担が減る。 ② 特化したサービスなどに対して、小回りのきくサービス提供が可能となる。	① 意欲的な事業者がいるかどうか重要。 ② 事業者によっては、質が確保されない心配がある。

※例 ① 認可外保育園に市が助成し低年齢児保育や夜間保育などを実施
② 小児科医院に病後児保育を委託
③ 小児科医院による病児保育

9. プランの実施計画

(1) 事業内容とスケジュール

平成 20 年度をプランの実施スタートの年度とし、平成 26 年度までを目標に各種事業に取り組みます。なお、清須市全体の平成 22 年度から平成 26 年度までの子育て支援の施策は、次世代育成支援行動計画（平成 21 年度に策定予定）で計画されますので、その計画の内容と完了年度に合わせて事業展開を目指します。

幼児教育プランの実施については、耐震補強、乳児保育の対応（保育ニーズに伴う受け入れ）、病後児保育の実施、乳幼児数の増加している地域の対応、の課題を優先していくこととします。次に、認定こども園、民間委託、施設の老朽化などの課題について、その課題ごとに順次具体的な実施計画を作成し、事業実施に取り組みます。

図表 28 実施計画の事業内容とスケジュール

年度	事業内容
20	須ヶ口保育園耐震補強等整備工事（耐震補強、乳児室増設、病後児室整備） 療育研究会（特別支援教育体制、障害児保育支援、療育の拠点、たんぽぽ園の整備などの検討） たんぽぽ園施設改修事業（特別支援教育など療育の拠点に対応した療育室、給食室改修） 廻間保育園耐震補強等整備工事（耐震化、園児増加に対応して全面改修） 保育園民間委託研究会（社会福祉協議会、NPO 法人等への民間委託の研究） 保育料等検討委員会（保育料、幼稚園授業料、認定こども園利用料等の検討） 下河原保育園廃園（現況、新川町史編纂室、適応指導教室、地域コミュニティ集会室）等検討 子育て支援センター等検討委員会（子育て支援のためのコミュニティづくり、子育ての悩みなどに対応したサロン、適切な設置場所等を検討） 認定こども園実施検討委員会（幼稚園の統廃合、幼保一元化に対応した認定こども園の実施場所、運営内容等を検討） 幼稚園の保育園、認定こども園に向けた準備 認定こども園整備工事（耐震補強を含む） 本町保育園改修工事（老朽化等に対応した改修） 桃栄保育園改修工事（老朽化等に対応した改修） 星の宮保育園改修工事（老朽化等に対応した改修）
26	小学校併設型認定こども園研究会

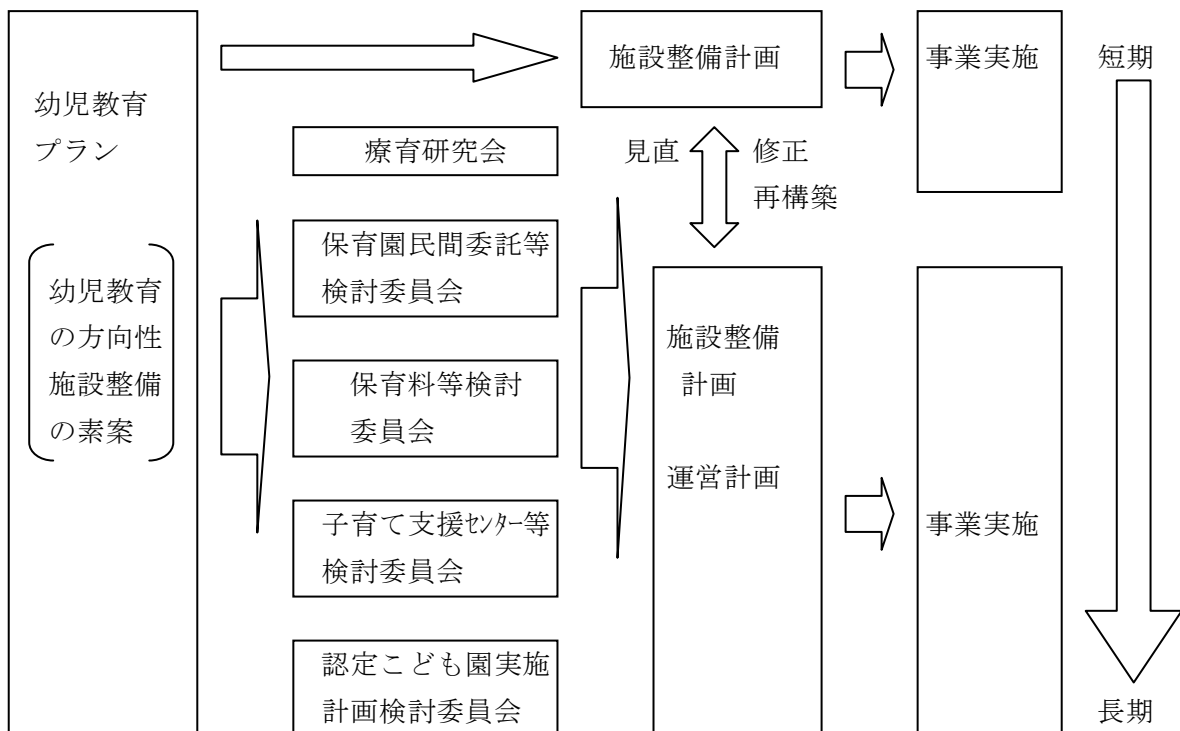
(2) 施設整備の進め方

幼児教育プランで短期計画として位置づけられる事業(須ヶ口保育園耐震補強等整備工事、廻間保育園耐震補強等整備工事)は、順次、具体的な整備計画を立案し、事業実施に取り組みます。

研究会や検討会を行うことを位置づけている事業については、それぞれの会で具体的な整備計画、運営計画を立案して、事業実施に取り組みます。

なお、事業実施については、適時、全体の計画の見直し、修正、再構築や短期的から長期的な見直しを行いながら進めていきます。

図表 29 事業（施設整備）の進め方



<資料 I >

1 グループインタビュー調査結果

(1) 調査の目的

「清須市幼児教育プラン」の策定にあたり、保育園や幼稚園に対する意見を聞く機会として、グループインタビュー調査を行いました。

なお、本調査は、「清須市次世代育成支援対策計画策定委員会」（平成19年7月4日開催）における委員意見により、調査の対象を広げ、市内の全ての保育園・幼稚園の他、関連団体等の協力を得て実施しました。

(2) 調査対象

施設	グループインタビュー参加者
保育園	新清洲・廻間(7)、一場・朝日(5)、須ヶ口、本町(7)、桃栄・土器野(10)、星の宮・西枇杷島(10)
幼稚園	第1(17)、第2(14)
療育関係	たんぼぼ園(6)
児童館・児童センター	清洲(4)、星の宮(5)、小田井(5)
子育て支援センター	清洲(5)、新川(8)
子育てグループ 支援団体	よちよちママクラブ(7) タイム(5)

※合計115名、文書による意見19名（ ）内はインタビュー参加者数

(3) 調査日時

平成19年7月20日、8月1日、2日の3日間

※各グループ概ね1時間程度のインタビュー調査を実施

(4) 主な意見

【保育園や幼稚園のイメージについて(入園前)】

- ・希望の保育園に入りたくても入れない。
- ・幼稚園と保育園の違いがわからない。また、公立と私立の違いなどについて、説明会や広報等で情報提供してほしい。
- ・働いている人は保育園、働いていない人は幼稚園に預け、幼稚園ではお勉強もするが、保育園は預けるだけというイメージしかない。
- ・何処にどの程度の保育園があるかよくわからない。
- ・保育園では生活上のことも学ぶと思うが、幼稚園のことはよくわからない。
- ・近くにある園の方が、病気の時など安心できる。(幼稚園か保育園というより、近くにあるかどうかで選択してしまう。
- ・公立幼稚園は費用が安いというイメージがある。一方、保育園は保育時間が長く、外遊びが多い

というイメージがある。

- ・園庭開放に行ったが、単に場所が利用できるだけ。職員との交流や園の情報が知りたい。
- ・園庭開放をして欲しい。以前はあったが、4～5年前になくなった。他の保護者や保育園の先生と話す機会があるといい。
- ・親が自分の子どもをしっかり見ていずに、おしゃべりに夢中になり、子どもが怪我をするといった状況が増大したから、園庭開放をやめたと聞いている。

【保育園について】

（保育時間や受け入れ等について）

- ・保育園の慣らし保育が少ない
- ・働いていると、保育園の平日の行事には参加できない。
- ・仕事が休みの日には預かってもらえない。リフレッシュの面でも預かってほしい。また、兄弟の行事や病気の為に仕事を休む時には預かってもらえない。
- ・多年齢児がいる保育園のメリットを生かし、縦割り保育を進めて欲しい。
- ・保育園の役員が大変なので、幼稚園を選ぶ人もいる。役員の負担は大きくなっている。
- ・働く為に保育園に預けられ、時間延長など充実もしている一方で、誰の為の保育園かを考える必要があるのではないか。
- ・「働いていないからダメ」ではなく、病児保育など多様な対応が必要。
- ・一時預かりを全園で実施して欲しい。
- ・一時預かりを申し込もうとしたが、職員の対応が悪かった。
- ・延長保育の料金をもう少し下げてほしい。

（保育内容や体験・行事等について）

- ・集団生活のルールを学べるようにして欲しい。
- ・以前は保育園で小動物を飼っていたが、最近は飼わなくなっている。飼育当番などもよい経験になる。その他、昔遊びや自然体験の機会を増やして。
- ・合宿保育など子どもにいろいろ体験させてくれるのがいい。
- ・運動、音楽、言葉、絵本読み聞かせなど、様々な体験が大切。
- ・「家庭で基本的な生活習慣を身につけて」と言われても、なにが基準なのかわからないので、もっと具体的に教えて欲しい。
- ・合宿保育や夏祭りなど行事が充実している保育園や、行事が少ない保育園など、保育園による差が大きい。特徴づくりが必要な一方で、市内の保育園の差を無くすことも必要だと思う。
- ・一方で、イベントが多いからといって、質がいいことにはならない。
- ・遠足の場所選びを工夫して欲しい。他の園と同じ日に同じ場所に行くと、人が多すぎて遊具等で遊べない。

（保育園での教育について）

- ・お勉強の時間がある程度が必要だと思う。
- ・保育園には、教育・学習はあまり期待していない。それよりも集団行動やマナー、しつけなどを重点的にやってもらいたい。
- ・基本的には、子どもが自由に遊んで、年長になると字を覚えるなど多少の学習をするというスタイルに満足している。
- ・基本的に困っていることはない。年長で字を覚える時間などがあるので、それらで充分だと思う。幼稚園と比較して、遅れているというような心配もしていない。

- ・保育園では子どもの知的成長があまり感じられない。遊びの中でも知的興味・好奇心は育てることはできると思うのだが。
- ・幼稚園によっては、習い事をしている子は、年長になると半分はいる。習い事の内容で多いのは、プール、ピアノ、習字。
- ・保育園によっては、保護者間で習い事の話をするのはあまりない。他の保育園では、年長の半分は習い事に行っている。習い事の内容で多いのは、ピアノ、英語、スイミング。

(親子・地域交流等について)

- ・地域とのつながりが強く、園外保育が多い点がいい。
- ・父親だけのイベントがあってもいい。最近、父の日や母の日のイベントは行われないう傾向にあるが、家族に感謝する日があってもいいのではないか。
- ・祖父母に対する参観日もあるが、祖父母来られない子どもにとっては孤独感を感じることもある。一方で、地域の高齢者との交流の機会を増やすことも必要ではないか。
- ・場所の問題もあるが、運動会を2園合同でやると、交流にもなるのではないか。一方、現在でも場所は狭いと思う。家族等が場所取りで大変。
- ・子どもは家事を手伝いたがるが、時間がかかるので、自分でやってしまう。
- ・夫は、平日は子どもの面倒をみるのがあまりない。

(給食・食育)

- ・野菜づくりなども含め、食育の機会を充実してほしい。
- ・給食やおやつが充実しており、アレルギーにも対応している。

(保育士に関して)

- ・保育士にあたたかい人が多い。
- ・男性保育士を積極的に配置して欲しい。家庭や地域では男性がいるので、保育園でも、男性がいる方が、精神面でも違うと思う。また、安全面でも男性保育士は必要。なお、幼稚園には男性が1~2名いる。
- ・保育士(就労)が続かなかつたり、集まらないうと聞くが、保育士にとって働きやすい環境づくりも必要ではないか。
- ・年配の保育士の中には、保育のやり方が事務的な人が多い。
- ・教職員は事務仕事に追われ、子どもと接する時間が少なくなっているのではないか。

(通園・降園時の環境や対応について)

- ・市外から転入してきたが、降園時等に保育士との交流が少ない様に感じる。
- ・保育園に駐車場を設置して欲しい。特に、雨の日の安全性が心配。泥だらけになってしまう園もある。周辺の道路が路駐で渋滞してしまう。
- ・通園のときグラウンドをとおらないといけないうが、通園路だけでも舗装してもらいたい。
- ・毎日、保育士と顔を合わせ話ができるところがいい(⇔幼稚園はバス通園すると幼稚園教諭と会うこともない)。
- ・朝の通園や帰宅の時間も時間の融通がきくのがよい(⇔幼稚園はバスの時間や帰りの時間が決まっているので)

(設備・安全対策について)

- ・建て替えに際しては、プールを設置して欲しい。
- ・園舎の雨漏りやシロアリ対策をしてほしい。
- ・保育園によっては、園庭の広さは充分だが、園庭が狭い保育園もある。

- ・グラウンドの水はけが悪い保育園がある。
- ・園庭を広くしてもらいたい。また、保育室が足りない。
- ・保育園の遊戯室を広くして欲しい。お遊戯会の時にみんなが入れるような広さがなく、見に行こうと思っても、見る場所もないくらい。お昼寝の時間も布団が敷けないと聞く。広い保育園もある。
- ・保育園の前に横断歩道がほしい。
- ・保育園は、セキュリティが甘い。忘れ物を届けに行くと、入り口が開いており、誰でも施設内に入ることができる保育園もある。
- ・市外から転入してきて感じたことだが、セキュリティ対策が不十分に感じる。例えば、誰でも自由に園内に入れるし、保護者以外の人が迎えに行くときの本人確認等が不十分ではないかと感じる。
- ・施設は、耐震が心配。建てられてから 30 年になる保育園もある。

(情報等について)

- ・園だより、クラスだより等を通じて、保育士のねらいや子どもの姿がよくわかる様にすることが大切。

(その他)

- ・子どもにより写真の枚数が大きく違ったり、園によって値段が違ったりする。
- ・昔の様に、おたより帳に出席シール等を貼ると、子どもの励みになる。
- ・土田地区には家が増えてきており、その一帯は子どもが多い。その地区のあたりに1園あると便利かもしれない。
- ・もし、保育園を建て替えるという話があるなら、今は保育園しかないので、どちらかを幼稚園にするというのもありだと思う。

【幼稚園について】

(保育・教育について)

- ・年長のスイミングプールや自然に触れる機会が少なくなった。
- ・今まで2週間の夏期登園が無くなってしまうのは問題。
- ・民間の幼稚園は特色が分かりやすく、子どもにとっても、子育てする上でも、目標を持ちやすいと思う。
- ・合併後、幼稚園の良いところがどんどん失われている。最低限、幼稚園の現状維持が必要である。
- ・食育に幼稚園でも取り組んで欲しい。
- ・私立の子どもと比較すると、私立の子の方がしっかりしていて、差があると感じる。
- ・西枇杷島の幼稚園は、内容的には保育園とほとんど同じ。リトミックや英語を入れるとか、幼稚園らしくして欲しい。

(給食について)

- ・給食でアレルギー食の対応をする必要がある。仕方が無く私立幼稚園に通っている。

(送迎について)

- ・送迎バスが無くなると、市外の民間幼稚園に通うようになってしまうのではないかと。廃止ではなく、全市的に広げるべきではないか。
- ・一方、市外の民間幼稚園は、バスに乗っている時間が長くなってしまふ。
- ・あと 30～1時間お迎えの時間を遅らせて欲しい。

(設備・安全対策について)

- ・緊急自動車が入れないような場所に幼稚園があると、災害時が心配。
- ・運動場は一定の広さは必要。
- ・幼稚園にスロープを設置して欲しい。また、床が滑るので、改善して欲しい。
- ・園庭がせまい幼稚園がある。
- ・園の遊具は老朽化していて安全性に不安がある。

(その他)

- ・制服(スモッグ)のデザインを考えて欲しい。
- ・地区により、定員オーバーであるなど、バランスを欠いているので、解消して欲しい。
- ・幼稚園教諭の募集広告が出ていたが、人手が足りないのでは。先生はあまり頻繁に変わらないで欲しい。
- ・小学校に行った時に、お母さん同士が知り合いになれるよう、他の幼稚園の親と交流したい。

【認定こども園・幼保一元化について】

(特徴やカリキュラムについて)

- ・幼稚園より保育園の方がよい。小さいうちは自由に遊ぶ方がよい。
- ・幼稚園や保育園では、人や自然との関わりを大切にすべきだと思う。
- ・規模的には100人程度の園の方が特徴づくりがしやすいと思う。
- ・保育園は先生が変わってしまうが、幼稚園はあまり変わらないというメリットもある。
- ・子どもを預かってもらうなら保育士がいい。
- ・一元化するとカリキュラムが多くなって子どもやるが増えるのではないか。
- ・昼食の質の低下が気になる。今の保育園の給食は、バランスもいいし、余ってればおかわりができる。どこかの幼稚園での話を聞くと、業者の弁当を食べさせているらしく、それでは体が大きい子などは、たぶん物足りないと思う。
- ・幼稚園の機能として、いいなと思っているのは、自然体験の時間があること。保育園の中には年長のみイチゴ狩りがあるが、これは子どもの評判がいい。
- ・保育園と幼稚園のいいところ同士を合わせれば、認定子ども園というのもいいかと思う。
- ・教育内容は、専門家(例えば、英語、体操、音楽など)の派遣等もあるといい。
- ・新たな施設を造り、乳児は保育主体、幼児は教育主体の方向性を持たせてはどうか？
- ・幼稚園と比較すると、保育園は、保育士ひとり当たりの園児数が少ないことや、手作りの部分があったが、よさが失われてきていると思う。

(保育時間・保育費等について)

- ・働く親としては、安心して預かってもらうのが第一。何かを教えつけるのは二の次でいい。
- ・時間が気になる。今の保育園は、通園時間や帰宅の時間がわりと融通がきくが、幼稚園の通園バスのように、時間が決められると働いている親にとっては、利用しにくくなる。
- ・幼稚園でも、16時頃まで預かってもらえると助かる。
- ・イメージとしては、幼稚園の預かり保育のように、希望する人だけ延長するようなスタイルになるようなイメージを持っている。
- ・夏休みが気になる。幼稚園のように夏休みがあるとすると、その期間は誰が面倒をみるのかという問題が出てくる。
- ・経済的負担の増加が気になる。保育に加えて教育の機能がより充実するとなると、今よりも費用

が余計にかかると予想されるので、その金額がどの程度になるかが気になる。

- ・現在の親のニーズは様々なので、多様なメニューが必要である。例えば、延長保育を充実させる一方で、短時間保育のニーズもあるのではないかな。

(保育園や幼稚園を選択できる環境について)

- ・現在は、家の近くにある保育園あるいは幼稚園に通っている人がほとんどなので、同じ小学校に通い、同じ中学校に進むことは、大きな環境の変化が無いので安心できる。
- ・保育園・幼稚園、小学校、中学校ずっと一緒であることは安心な一方で、高校や社会に出ると様々な人との関わりがあるので、環境の変化も必要ではないかな。
- ・保育園、幼稚園にはそれぞれの良さがあるので、選べることも大切。
- ・幼保の一元化よりも、保育園と幼稚園、また、公立と民間の4つの選択肢から選べる環境が必要。民間の幼稚園や保育園を市内に誘致することも検討すべき。
- ・保育園と幼稚園とは一緒にする必要はなく、それぞれ選べる環境があるほうがいい。
- ・基本的には別々の方がいい。また、勉強を教えてもらいたい人は私立を選べばよいと思うが、もう少し勉強の時間を取り入れてもらえるといい。
- ・基本的にはいろんな選択肢があって、その中から選べばいい。就学前の教育を重視する園もあっていいし、とにかくのびのび遊ばせる園もあっていい。
- ・清洲地区に幼稚園や幼稚園の機能を持った保育園があると選択肢が増えていいと思う。
- ・子育ての負担が軽減されるのならば、選択肢を多くすべき。

(その他の意見)

- ・保育園によっては、保育士と保護者の間に一線があり、お互い話し合いながら保育園を良くしていくというような雰囲気がない。一元化よりもこういった問題の解決が先。
- ・一元化する意味があるのかわからない。その前に、市内の保育のレベルを統一した方が、もっとよくなると思う。
- ・一元化のイメージはない。これから新しく建てる際に、一元化施設を検討するのはいいのでは。
- ・学校によっては一定のレベルがあり、従来の保育園等のあり方でも、教育上の課題があるとは思えない。
- ・行事の増加が気になる。幼稚園では、PTA主催の行事がけっこうあると聞いているので、そのような行事が多くなるとすると、負担が増える。

【療育環境について】

(教職員・施設等について)

- ・保育園や幼稚園、また、小学校の職員に障害に対する知識を身につけて欲しい。適切な就園・就学ができるようにしてほしい。小学校では、療育を行える教諭を配置して欲しい。
- ・発達障害等も増えているので、施設の箇所数を増やして欲しい(市内に1箇所しか無い為、車がないと通えない)。
- ・職員数を増やし、個別療育に対応して欲しい。特に、訓練等の専門職を配置や男性職員(療育士)を配置してほしい。
- ・療育施設の園庭(砂場、遊具など)を整備し、駐車場と区分して欲しい。園児が駐車場に飛び出してしまう一方で、一般利用者は園のことを知らない。
- ・療育施設の給食について検討して欲しい。

(支援やケア全般について)

- ・手がかかる子どもでも、他の児童と一緒に保育園等を利用できるようにして欲しい。また、子どもにとっては、小さな時から障害がある子どもと接することにより、バリアを感じなくなるのではないかな。
- ・小学校に入る前に集団生活等ができるか、保育園を利用するなど試してみたい。
- ・気軽に相談できるなど、母親達に対するケアの機会を充実して欲しい。
- ・犬山では自閉症の子どもに対して、ケースワーカーが、地域や学校との間に立って継続的に関わっている。コーディネーター的な役割を担う人がいると、いろいろな関係性を築きやすいのではないかな。

【小学校との関係について】

- ・保育園には、教育・学習はあまり期待していない。小学校に入ってからでも大丈夫。
- ・(私立の幼稚園等に通う場合など)小学校に入ってから友達づくりが気になる。
- ・小学校に入った後で、私立と公立の幼稚園の違いは無いと思う。
- ・スクールカウンセラーは2年程度で変わってしまうが、もっと長く在籍できる様にすべきでないかな。
- ・幼稚園や保育園では、先生との交流があったが、小学校に入ると、急に無くなってしまうので心配。
- ・幼稚園や保育園と、小学校の情報交換などが殆どないのは問題。
- ・小学校に入るまでにどの程度、読み書きできるようにしておく必要があるのか、学校の求める水準が分からない。入学する直前に言われるのではなく、1年前くらいから伝えてもらえると、時間をかけて準備ができる。

【清須市全般の子育て環境について】

(子育て支援の方針や施策・事業について)

- ・清須市の子どもたちをどの様に育てたいのか、市のビジョンが見えない。
- ・日本の子どもたちはみんな同じ様に教育されており、それぞれが自分の意見を持ちにくくなると思う。個性を伸ばす教育が必要。
- ・旧3町で基準を統一するのは大変だが、市民と行政のギャップが生じないようにすべき。
- ・合併して市になってから締め付けが強くなっている。人を育てる豊かさが必要ではないかな。
- ・子育て支援においては、親育ての視点も必要。
- ・いじめ等の対応も必要。
- ・市に意見を言える場があるといい。ホームページに掲示板をつくるなど。
- ・病児保育やお泊まり保育、入院・自宅療養している母親のサポートなどが必要。
- ・人の心を豊かにする為の施策や計画であるべき。

(放課後の児童の居場所等について)

- ・名古屋市で行っているトワイライトスクールをやってほしい。
- ・学童対象以上の年齢についても、小学生を預かってくれる施設があるといい。

(その他)

- ・小学校に入学前、ランドセルを配布しているが、無駄になっていることも多い。
- ・小学校に、椅子に座っていることができない子どもがいる。
- ・小学校の配置によって、校区の区分けが変わるのか心配。

- ・それぞれの幼稚園、小学校、中学校の良さとかをわかるようにして、選べるようにしてほしい。
- ・中学生の子どもがいるが、40人学級では多い感じがして、一人ひとりちゃんと先生から見てもらえるのか不安に思う。
- ・清須市は図書館が弱い。時間をつぶしに行ってみるというような場所ではない。図書館というよりも図書室というレベル。図書館を充実してほしい。
- ・土田区画内は住民が増えているため、現在の保育園の定員ではあふれるのでは？
- ・子ども会に入らない親や保護者向けの説明会などに来ない人をどうするか。
- ・小さな時期に子どもを預けることが、子どもにとって本当によい結果とつながっているか、検証も必要だと思う。
- ・長期にわたる計画の場合、時代とともにニーズが変わることに留意する必要がある。
- ・市や園に対して、意見を言える人はいいが、言えない人もいる。そうした人たちの声を聞くようにすることも必要と思う。

【児童関連施設等について】

（公園について）

- ・公園の遊具は無くなるだけ。何も無い公園になってしまう。
- ・近くに公園がなく、園庭開放もしていないため、遊び場がない。
- ・公園の管理がなされていないところがある。地域で管理するような体制ができればいい。
- ・水道がない公園があるが、水道を設置してほしい。
- ・小さな子どもが遊べる公園がない。大きな子どもの横で遊んでいると、危険を感じる。
- ・新しく公園ができたが、途中、川を越えていく必要があるなど危険な場所がある。

（児童館について）

- ・児童館は、異年齢の交流があるので、子どもにとってもいい。
- ・児童館では、子どもの面倒は親が見ることが基本だが、2人同時に見られない。
- ・（公園と比較すると）児童館は、安心して遊べる遊具が揃っている。
- ・一人で公園に遊びに行けない時代になっているので、児童館は安心して遊べる。
- ・児童館によって違いがあると思うが、もっとイベントがあるといい。中には行きにくい児童館もある。

（子育て支援センターについて）

- ・支援センターは広くて使いやすい。お金がかからず、親子で安心して遊べる。
- ・各保育園に子育て支援センターが併設されているといい。
- ・各支援センターで同曜日・同年齢となってしまう、使いにくくなった。以前は、複数の支援センターを掛け持ちで利用することができた。

（その他）

- ・ファミリーサポートセンターは、兄弟で利用すると、お金がかかる。

【地域環境について】

（防犯対策について）

- ・最近、治安の面で不安に思うことが多くなった。あくまでも喩えだが、各公園に監視カメラを付けるなどの対策も考える必要があるのではないかな。
- ・土田の地域については、よそから来た人が多くなっているため、ちょっと不安がある。

- ・(人の目につきにくい)小さな公園は防犯上、心配なので、大きな公園を利用している。
- ・不審者情報などの緊急メールなど、園や地域によって偏りがある。
- ・一部の公園は周りが道路に囲まれているので、交通事故が起きないか心配。あきらかに事故が起きそうなどところがある。

(その他)

- ・駅前の放置自転車対策をしてほしい。
- ・保育園等の子どもの声に対し、周辺地域から苦情が寄せられることもあるそうだが、残念なことである。住宅の購入や借りる際、不動産業者等に児童関連施設が近隣にあることを、きちんと伝えて欲しい。
- ・踏切や細い道が多く、その点がいつも心配。

2 母子通園施設等現況調査結果

(1) 目的

現在、本市では、母子通園施設「たんぽぽ園」を実施しています。幼児教育プランでも、幼児教育の一つとして障害児保育の対応についての課題があり、また、適切な就学を実施していくために就学前での対応も必要となっています。

以上のことを含め、今後の母子通園施設「たんぽぽ園」の運営について、検討していく必要がありますので、愛知県内の療育を実施していると思われる母子通園施設等を対象として、現況調査を実施するものです。

(2) 方法

① 調査対象

愛知県内（名古屋市を除く）の療育を実施していると思われる母子通園施設等について、インターネット、愛知県資料を参考にして、事前調査した。

なお、母子通園施設等とは、次の施設を対象として調査・選定した。

- ・障害児通園施設：児童福祉法に基づく児童福祉施設のうち障害児通園施設。障害児を通園させて、保護者とともに独立自活に必要な知識技能を与えることを目的。
- ・母子通園施設：児童福祉法に基づく障害児通園施設及び児童デイサービスに準ずる母子通園施設または発達障害者支援法による市町村の責務に対応した母子通園事業など。障害の種類が特定していない乳幼児や特定の通園施設における療育の対象となりにくい障害児について柔軟に対応することを目的。
- ・児童デイサービス：児童福祉法に基づく障害児の居宅支援のうち児童デイサービス。障害児が日常生活における基本的動作を習得し、集団生活に適應できるよう適切な指導及び訓練を行うことを目的。

その結果、愛知県内（名古屋市を除く）62市町村に設置されている障害児通園施設、母子通園施設、児童デイサービスなど75か所に質問紙を郵送した。回答数は61か所で、このうち有効数は56か所（有効回答率74.67%）であった。

② 調査時期

平成19年7月

③ 調査内容

- ① 療育の取り組み状況
- ② 療育のついての予算の状況
- ③ 職員の配置状況
- ④ 職員の賃金の状況
- ⑤ 通園している児童の状況
- ⑥ 療育の内容について
- ⑦ 関係機関との連携の状況

(3) 調査結果(集計表)

調査概要		(%)
調査数	75 所	
回答数	61 所	81.33
有効数	56 所	74.67

施設の種別		(%)
障害児通園施設	15 所	26.79
母子通園施設(事業)	23 所	41.07
児童デイサービス	13 所	23.21
その他	4 所	7.14

施設名称の分類		(%)
植物等の名称	25 所	44.64
動物の名称	5 所	8.93
その他	26 所	46.43

設置者		(%)
自治体	51 所	91.07
民間	5 所	8.93

運営者		(%)
自治体	35 所	62.50
民間	21 所	37.50

建物の状況		(%)
専用	27 所	48.21
併用	29 所	51.79
保育園	9 所	16.07
保健センター	4 所	7.14
老人施設	6 所	10.71
その他	10 所	17.86

利用児種別		(%)
視覚障害	10 所	17.86
言語聴覚障害	20 所	35.71
肢体不自由	34 所	60.71
内部障害	8 所	14.29
知的障害	51 所	91.07
精神障害	14 所	25.00
重複障害	17 所	30.36
その他	13 所	23.21

療育時間	平均
全体	4.89 時間
通園施設	6.18 時間
母子通園	4.23 時間
児童D	5.08 時間
その他	3.60 時間

母子通園		(%)
有	46 所	82.14
6歳まで	20 所	35.71
就学前まで	9 所	16.07
その他	17 所	30.36
無	10 所	17.86

利用料		(%)
有料	37 所	66.07
月額	6 所	10.71
日額	31 所	55.36
無料	19 所	33.93

昼食		(%)
弁当持参	20 所	35.71
給食有	30 所	53.57
なし	3 所	5.36
その他	3 所	5.36

おやつ		(%)
あり	24 所	42.86
なし	32 所	57.14

予算の状況		(%)
人件費	85.75 %	
施設管理費	6.98 %	
教材費	0.66 %	
行事費	0.16 %	
備品費	0.45 %	
その他	6.00 %	

職員の状況		(1ヶ所あたり)	(%)
正規職員	221 名	3.95	49.77
臨時職員	223 名	3.98	50.23
計	444 名	7.93	

指導員の状況		(1ヶ所あたり)	構成比率(%)
保育士	311 名	5.55	79.95
心理士	13 名	0.23	3.34
うち臨床心理士	11 名	0.20	2.83
社会福祉士	9 名	0.16	2.31
作業療法士	3 名	0.05	0.77
言語聴覚士	4 名	0.07	1.03
その他	49 名	0.88	12.60
計	389 名	6.95	

保育士の賃金の状況 (N=45)		(%)	平均
900円-949円	7 所	15.56	1,061 円
950円-999円	11 所	24.44	
1,000円-1,049円	9 所	20.00	
1,050円-1,099円	3 所	6.67	
1,100円-1,149円	5 所	11.11	
1,150円-1,199円	1 所	2.22	
1,200円-1,249円	5 所	11.11	
1,250円-	4 所	8.89	

利用児の年齢		(1ヶ所あたり)	男女の利用状況 (%)
0歳	2 名	0.04	男子 839 名 70.92
1歳	58 名	1.04	女子 344 名 29.08
2歳	436 名	7.79	計 1,183 名
3歳	339 名	6.05	
4歳	217 名	3.88	平均
5歳	128 名	2.29	2.94 歳
6歳以上	3 名	0.05	
計	1,183 名	21.13	

取り組んでいる事項		(%)
単独通園	22 所	39.29
レスパイト	5 所	8.93
就園へのステップ	41 所	73.21
保育園等の併用利用	27 所	48.21
父親療育	13 所	23.21
母子分離	43 所	76.79
個別懇談	53 所	94.64
親集団学習	37 所	66.07
その他	9 所	16.07

療育で取り組んでいること		(%)
居場所づくり	34 所	60.71
友達づくり	37 所	66.07
様々な体験の場づくり	44 所	78.57
親子関係づくり	53 所	94.64
感覚運動的遊び	48 所	85.71
個別遊戯療法	8 所	14.29
集団遊戯療法	17 所	30.36
行動療法	1 所	1.79
応用行動分析	3 所	5.36
理学療法	8 所	14.29
作業療法	18 所	32.14
言語聴覚訓練	27 所	48.21
音楽療法	11 所	19.64
ティーチプログラム	16 所	28.57
親支援プログラム	8 所	14.29
特別支援教育プログラム	2 所	3.57
障害児保育	5 所	8.93
その他	6 所	10.71

発達検査の状況		(%)
実施している	26 所	46.43
新版K式発達検査	11 所	19.64
遠城寺式乳幼児分析的発達検査	15 所	26.79
田中ビネー知能検査	5 所	8.93
津守式乳幼児精神発達質問紙	3 所	5.36
その他(PEP-R,WISC-III K-ABC,KIDS)	6 所	10.71
実施していない	30 所	53.57

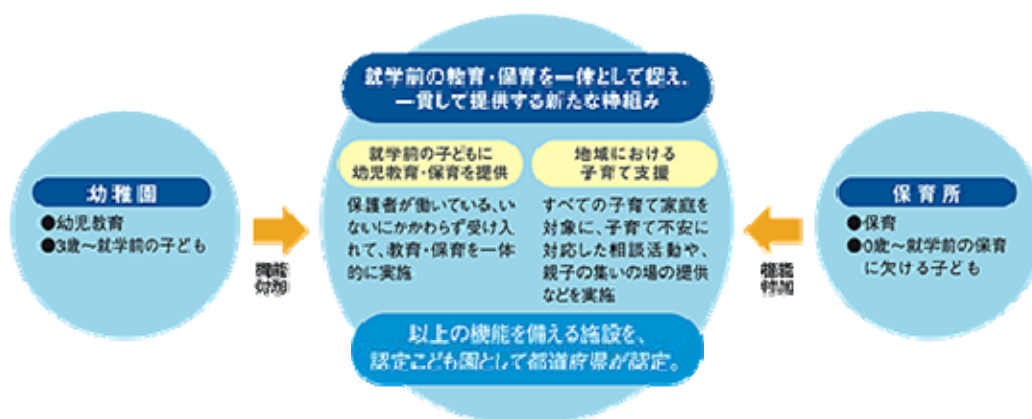
療育で支援を受けているところ		(%)
青い鳥医療福祉センター	18 所	32.14
あいち小児保健医療総合センター	5 所	8.93
愛知県心身障害者コロニー	25 所	44.64
児童(障害者)相談センター	34 所	60.71
病院	11 所	19.64
医師	21 所	37.50
保健師	20 所	35.71
臨床心理士	18 所	32.14
理学療法士	14 所	25.00
作業療法士	23 所	41.07
言語聴覚士	31 所	55.36
音楽療法士	5 所	8.93
臨床発達心理士	3 所	5.36
その他	22 所	39.29

3 認定こども園の概要

(1) 認定こども園とは

幼稚園、保育所等のうち、以下の機能を備え、認定基準を満たす施設は、都道府県知事から「認定こども園」の認定を受けることができます。

- ① 就学前の子どもに幼児教育・保育を提供する機能
(保護者が働いている、いないにかかわらず受け入れて、教育・保育を一体的に行う機能)
- ② 地域における子育て支援を行う機能
(すべての子育て家庭を対象に、子育て不安に対応した相談活動や、親子の集いの場の提供などを行う機能)



認定こども園には、地域の実情に応じて、幼保連携型、幼稚園型、保育園型、地方裁量型の4タイプが認められます。

認定こども園のタイプ

幼保連携型	認可幼稚園と認可保育所とが連携して、一体的な運営を行うことにより、認定こども園としての機能を果たすタイプ
幼稚園型	認可幼稚園が、保育に欠ける子どものための保育時間を確保するなど、保育所的な機能を備えて認定こども園としての機能を果たすタイプ
保育所型	認可保育所が、保育に欠ける子ども以外の子どもも受け入れるなど、幼稚園的な機能を備えることで認定こども園としての機能を果たすタイプ
地方裁量型	幼稚園・保育所いずれの認可もない地域の教育・保育施設が、認定こども園として必要な機能を果たすタイプ

(2) 認定こども園の認定基準

認定こども園の具体的な認定基準は、文部科学大臣と厚生労働大臣が協議して定める「国の指針」を参酌して、各都道府県が条例で定めます。

	国の指針
職員配置	<ul style="list-style-type: none"> ● 0～2歳児については、保育所と同様の体制 ● 3～5歳児については、学級担任を配置し、長時間利用児には個別対応が可能な体制
職員資格	<ul style="list-style-type: none"> ● 0～2歳児については、保育士資格保有者 ● 3～5歳児については、幼稚園教諭免許と保育士資格の併有が望ましいが、学級担任には幼稚園教諭免許の保有者、長時間利用児への対応については保育士資格の保有者を原則としつつ、片方の資格しか有しない者を排除しないよう配慮
教育・保育の内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼稚園教育要領と保育所保育指針の目標が達成されるよう、教育・保育を提 供 ● 施設の利用開始年齢の違いや、利用時間の長短の違いなどの事情に配慮 ● 認定こども園としての一体的運用の観点から、教育・保育の全体的な計画を編成 ● 小学校教育への円滑な接続に配慮
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者が利用したいと思ったときに利用可能な体制を確保（親子の集う場を週3日以上開設するなど） ● さまざまな地域の人材や社会資源を活用

(3) 幼保連携型の特例について

これまで、幼稚園の運営費及び施設整備費の助成については原則学校法人に、保育所の施設整備費の助成については原則社会福祉法人等に限られていましたが、幼保連携型の認定こども園については、設置者が学校法人、社会福祉法人のいずれであっても、運営費及び施設整備費の助成が可能になります。

(4) 認定こども園の利用手続きについて

認定こども園の認定を受けた施設は、保育所であっても、利用者と施設との直接契約による利用となり、利用者は利用料を直接施設に支払うことになります。

幼保連携型、保育所型については、市町村が保育に欠ける子どもの認定を行います。

(5) 都道府県や市町村の行政窓口は

「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」において、地方自治体の関係機関の連携協力が義務付けられています。これに基づき、都道府県や市町村においては、次のような場面で一体的対応の推進を図るとともに、都道府県と市町村との連携の推進も必要です。

- 幼児期の教育・保育に関する保護者向け窓口
- 認定こども園の認定申請と、幼稚園・保育所の認定申請の受付窓口
- 補助金申請窓口

(以上、文部科学省・厚生労働局 幼保連携推進室のホームページより作成)

<資料Ⅱ>

1 次世代育成支援対策行動計画策定委員会の開催状況

日 時	議 題
平成19年 7月 4日	平成19年度の取り組みについて 幼児教育プランについて
平成19年10月30日	清須市幼児教育プラン施策グループインタビュー結果報告等について 清須市幼児教育プラン施策骨子案について
平成20年 1月 9日	清須市幼児教育プラン案について
平成20年 2月26日	パブリック・コメントの実施結果について 清須市幼児教育プラン案について

2 次世代育成支援対策行動計画策定委員会委員等名簿

区 分	職名等	氏 名	備 考
社会福祉 関係	社会福祉協議会会長	小川 禎一	
社会福祉 関係	民生児童委員協議会会長	村瀬 正守	第3回から
民生委員 児童委員	民生児童委員協議会 児童福祉部副会長	日下部 壽子	
小学校保護者 代表	古城小学校 PTA 代表	小笠原真由美	
幼稚園保護者 代表	幼稚園 PTA 代表	伊藤 文	
児童館保護者 代表	小田井児童館代表	吉川 知恵	第3回から
保育園保護者 代表	保育園連絡協議会会長	斉藤 玲子	
福祉関係代表	身体障害者福祉協会会長	芳村 重夫	
子育て支援 関係	子育てネットワーク代表	建部 憲子	
子育て支援 関係	保育サポーターえぷろん 代表	谷 尚子	
子育て支援 関係	保育サポーター・タイム 代表	原田 晴美	
文教関係者 代表	教育長	内田 敏正	
文教関係者 代表	清洲中学校校長	藤沢 修一	

次世代育成支援対策行動計画策定委員会前委員

区 分	職名等	氏 名	備 考
社会福祉 関係	民生児童委員協議会会長	吉田 和子	第2回まで
児童館保護者 代表	小田井児童館代表	金子 陽子	第2回まで

オブザーバー

職 名	氏 名
愛知県健康福祉部子育て支援課 課長補佐	西 村 祐次郎

3 幼児教育プランに関するパブリック・コメント実施結果

1. 実施期間 : 平成 20 年 2 月 1 日から平成 20 年 2 月 15 日まで

2. 提出数等

- (1) 提出数 39 通 (その他 1)
- (2) 提出方法 窓口提出 31 通、郵便 0 通、ファクシミリ 5 通、電子メール 3 通
- (3) 男女別 女 25、男 1、団体 1、不明 12

3. 意見総数 : 100 件

<内訳>

- (1) プラン (案) について 50 件
- (2) 保育について 23 件
- (3) 幼児教育について 16 件
- (4) その他 11 件

4. 意見に対する市の考え

意見の分類	パブリック・コメントの内容 — () 内の数字は受付番号—	市の考え
1. プラン (案) について	(1) 認定こども園の必要性・あり方 ①認定こども園は必要 (17) ②幼保の一体化の必要性の説明がない (20) ③認定こども園の必要性の記載を明確に (20) ④西枇杷島地区の保育園数不足 (4) ⑤清洲町へ公立幼稚園を (12) ⑥公立幼稚園整備 (13) ⑦新川・清洲地区に幼稚園 (14) ⑧公立幼稚園を排除しない (21) ⑨幼稚園の適正規模 (27) ⑩のびのびと過ごせる認定こども園 (3) ⑪認定こども園の質を高く (22) ⑫ゆとりのある保育 (22) ⑬それぞれのよさを取り入れた幼保一元化 (8) ⑭のびのびとした教育を (18)	①～③ 保育園においては幼児教育が、幼稚園においては長時間保育が求められるようになるなど、等しく幼児の保育・教育機会の充実を図ることが求められています。認定こども園について、さらに「Q&A」の形で説明を追加いたします。 ④～⑨ 0～2歳の待機児童が生じており、解消する必要があります。特に、本市においては、西枇杷島地区で幼稚園2園に対し保育園が1園と少なく、新川・清洲地区には幼稚園がないことから、3地区において、保育園機能と幼稚園機能をあわせ持つ認定こども園の整備を図り、保育園を含めて全体として幼児教育内容の充実を図ります。 ⑩～⑭ どのような保育・教育を行う認定こども園にしていくかは、今後、「認定こども園実施検討委員会」において考えてまいります。

<p>(2) 認定こども園への質問・疑問・問題点</p>	<p>①どの認定こども園のタイプをめざすか (22) ②「認定こども園」はどのパターンになるのか (18) ③どの検討パターンにするのか (29) ④認定こども園の具体的な案を (28) ⑤認定こども園の保育料 (27) ⑥保育料の負担増 (25) ⑦認定こども園はわからないことが多い (29) ⑧いつごろから運営開始か (29) ⑨認定こども園の配置 (2) ⑩認定こども園での行事やP T A活動 (23) ⑪保護者参加の行事 (24) ⑫P T A役員の役割 (24) ⑬一元化により縦の繋がりがどうなるのか (18) ⑭地域での交流が必要 (2) ⑮小1問題の解決になるか (10)</p>	<p>①～⑨ 認定こども園をどのような内容にしていくかは、今後、「認定こども園実施検討委員会」「保育料等検討委員会」において考えてまいります。現時点では、認定こども園や施設整備、管理・運営の検討パターンを示したところですので、保育園と幼稚園のよいところを活かしながら検討を進めていきます。</p> <p>⑩～⑫ 認定こども園の行事やP T Aのあり方なども、「認定こども園実施検討委員会」などにおいて検討の場を設けてまいります。</p> <p>⑬⑭ 従前の保育・教育内容のよいところを活かして、縦の繋がり、地域での交流などを、適切に進めてまいります。</p> <p>⑮ 保育園を含めて幼児教育と小学校との連携を強化することにより、「小1問題」の解決をめざします。</p>
<p>(3) 認定こども園よりも既存の園の充実</p>	<p>①保育園・幼稚園のいいところを均一化 (32) ②幼稚園の統合と保育園定員の増加 (19) ③幼稚園・保育園で分かれた方がよい(27) ④今の園の充実から (16) ⑤保育園の継続 (長時間や夏休みがない等) (31) ⑥保育園の継続(長時間、長い休みがない) (33) ⑦保育園の継続 (夏休み等がない) (34) ⑧保育園の継続 (長期の休みがない、長時間保育) (36) ⑨保育園の現状維持 (10) ⑩現状の保育体制維持 (11)</p>	<p>①～④ 新たに建設するのではなく、既存の施設を活用し、幼稚園の統合とあわせて、認定こども園を3地区に整備します。また、各園の優れた取組みを活かし、サービスの充実をめざします。</p> <p>⑤～⑩ 保育ニーズに対応して保育機能の充実を図ります。幼稚園の統合にあわせて認定こども園を3地区各1園で整備を図ります。</p>

	<p>(4) 計画への質問・提案</p>	<p>①新川・清洲地区での私立幼稚園児数調査 (23)</p> <p>②各園の特徴をふまえた計画 (20)</p> <p>③グループインタビュー調査の計画への反映 (29)</p> <p>④グループインタビュー調査結果の反映 (20)</p> <p>⑤食育の推進 (20)</p> <p>⑥施設整備パターン・管理運営パターンの利点・問題点 (20)</p> <p>⑦小1問題とは? (29)</p> <p>⑧幼稚園入所率の分母 (29)</p> <p>⑨計画はコンパクトに (28)</p> <p>⑩目標値への疑問 (15)</p> <p>⑪パブリック・コメントの説明 (22)</p>	<p>① 今後、新川・清洲地区で認定こども園の整備する時に、入園希望者の調査を実施し、規模を決めてまいります。</p> <p>②～⑤ 保育内容の充実などにつきましては、可能な点は日々の保育行政への反映を図るとともに、平成 21 年度策定予定の「(仮称) 子育て夢プラン (清須市次世代育成支援行動計画)」に反映を図ります。</p> <p>⑥今後、その具体的な検討は「認定こども園実施検討委員会」「保育園民間委託研究会」などで検討を行う予定です。</p> <p>⑦ 小学校入学時に、授業になじめず、学級崩壊や不登校などに繋がる問題で、幼児教育の充実や学習障害等への早期の対応などがが必要です。</p> <p>⑧ ここでは、幼保をあわせた入所率をみており、地区の差がないことを見ています。</p> <p>⑨ 100 頁なるような計画書が多い中で本計画はスリム化を図っております。別途、ホームページなどでも紹介します。</p> <p>⑩ この目標値は本計画のものでなく、平成 17 年作成の「子育て夢プラン」の目標値であり、平成 21 年の目標値を超えてすでに達成しております。</p> <p>⑪ 「計画案への意見募集 (パブリック・コメント)」のように、今後、わかりやすい表記を検討します。</p>
<p>2. 保育について</p>	<p>(1) 保育体制</p>	<p>①未就園児の入所待ちの解消 (14)</p> <p>②乳児の受け入れ人数増加 (9)</p> <p>③長時間や土曜保育 (1)</p> <p>④長時間保育は助かる (37)</p> <p>⑤保育時間を 16 時 30 分に (35)</p> <p>⑥産休時の保育園退園 (19)</p> <p>⑦偽就労証明での入園 (6)</p> <p>⑧各園での調理 (1)</p>	<p>①～⑫ 保育体制の充実につきましては、可能な点は日々の保育への反映を図るとともに、平成 21 年度策定予定の「(仮称) 子育て夢プラン (清須市次世代育成支援行動計画)」に反映を図ります。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ⑨保育園の教室の適正化 (19) ⑩保育園の定員・クラスオーバー (30) ⑪星の宮保育園の建て替え (5) ⑫保育園の遊具の修理 (14) 	
	(2) 保育内容	<ul style="list-style-type: none"> ①保育園の入園前の見学・利用 (10) ②新川の保育内容の継続(合宿保育、昔遊び、異年齢のグループ分け等) (38) ③保育内容の継続(行事・お泊まり保育) (39) ④自然体験の充実 (22) ⑤行事内容の統一 (8) ⑥各園の保育の質の均一化 (9) 	①～⑥ 保育内容の充実につきましては、可能な点は日々の保育行政への反映を図るとともに、平成 21 年度策定予定の「(仮称)子育て夢プラン(清須市次世代育成支援行動計画)」に反映を図ります。
	(3) 保育士	<ul style="list-style-type: none"> ①男性保育士の採用 (6) ②子供の数に応じた保育士の配置 (9) ③保育士の充実 (15) ④適正な職員数の確保と保育園行事への取組みの限度 (19) ⑤保育士の質 (19) 	①～⑤ 保育士に関することにつきましては、国の基準を遵守し、適切な対応をいたします。
3. 幼児教育について	(1) 幼児教育施設	<ul style="list-style-type: none"> ①耐震性、床が滑る (26) ②段差、階段・遊具の老朽化 (26) 	①～② 幼児施設の整備においては、適時、対応に努めます。
	(2) 幼児教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ①幼稚園の入園前の見学・利用 (10) ②遊び中心の教育内容は疑問 (26) ③自然体験の充実 (22) ④自然体験等は畑で (27) ⑤運動会は別々に (27) ⑥子供数と先生方の負担 (26) ⑦学習障害などへの対応 (26) ⑧発達障害等への対応 (21) 	①～⑥ 幼児教育内容の充実につきましては、可能な点は日々の教育への反映を図るとともに、平成 21 年度策定予定の「(仮称)子育て夢プラン(清須市次世代育成支援行動計画)」に反映を図ります。 ⑦⑧ 本計画に基づき、「療育研究会」を立ち上げ、特別支援教育の充実を図ります。
	(3) 通園バス	<ul style="list-style-type: none"> ①通園バスの廃止 (2) ②幼稚園の送迎バス (7) ③通園バスの廃止は残念 (25) ④園バスが必要に (22) ⑤通園バスが必要 (24) ⑥通園バスは必要 (27) 	①～⑥ 通園バスについては、保育園児との均衡を考慮し、廃止とさせていただきます。

4. その他	(1) 放課後対策	①放課後対策(学童保育、児童館など)(7) ②学校での学童保育(17)	①② 放課後児童クラブについては、日々の運営に対応を図ります。また、放課後対策について、清須市放課後対策事業策定委員会において検討するとともに、平成21年度策定予定の「(仮称)子育て夢プラン(清須市次世代育成支援行動計画)」に反映を図ります。
	(2) 幼保小連携	①入学へ向けての準備(5) ②幼稚園から小学校通学区への繋がり(25) ③幼小連携(2) ④幼保小連携(10)	①～④ 本計画に基づき、幼保小連携の強化を図ります。
	(3) その他	①ランドセル予算の見直し(22) ②未就園児の遊べる場所(13) ③安全な外遊びの環境(3) ④公園の遊具が充実してない(27) ⑤図書館、市民プール整備(13)	①～⑤ 教育環境の整備に努めるとともに、平成21年度策定予定の「(仮称)子育て夢プラン(清須市次世代育成支援行動計画)」の中で検討してまいります。

5. 意見一覧（1～39）

番号	意見内容 (番号は4の分類項目に対応)	意見
1	2(1) ③ 長時間や土曜保育 2(1) ⑧ 各園での調理	<p>今後の幼児教育に望むことは、共働きの家庭でも、安心して預けることができる保育園であることです。長時間や土曜保育を各園で実施されることを望みます。</p> <p>指定の園のみ行われる場合、最低限ではなく、違う園の現状とよさが見られるからです。</p> <p>また、食教育の一つとして、各園での調理を行う。作る過程から見ることができ、食材を手間をかけ、調理することにより、食材・作ってくれる人に感謝、生きている命をいただいて、自分たちの体になることを、身近に感じることができると思います。</p>
2	1(2) ⑭ 地域での交流が必要 1(2) ⑨ 認定こども園の配置 3(3) ① 通園バスの廃止 4(2) ③ 幼小連携	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に地域での交流が必要だと思う。 ・幼稚園には、兄弟で、小さい子がいたり、徒歩で行くのが難しい距離の人が通園にバスを利用している人が多い。バスがなくなることによって困っている人がいる。新川地区の一部で幼稚園に通園範囲になっているので、そのことを考えて欲しい。 ・認定こども園を実施するのであれば、各地にあることと、徒歩圏を考え、配置して欲しい。 ・小学校との連携をもう少し図って欲しい。幼稚園のお迎えの時間と、小学校1年生のはじめの方の下校時間が重なることがあり、兄弟で、園児と小学1年生がいる家庭では、大変である。
3	1(1) ⑩ のびのびと過ごせる認定こども園 4(3) ③ 安全な外遊びの環境	<p>(認定こども園について)</p> <p>現在保育園へ通っていますが、毎日楽しく過ごしている様です。子供達のがびのびと過ごせるのであれば、認定こども園があっても良いと思います。</p> <p>色んな親御さんの意見を聞いて頂きたいです。</p> <p>子供達が安全に外で遊べる清須市になって欲しいです。</p>

4	1(1) ④ 西枇杷島地区の保育園数不足	<p>① 西枇杷島地区の保育園数の不足。</p> <p>清須市の他地区、新川地区4園、清洲地区5園と比較して、西枇杷島地区は1園と極端に差があります。すでに、1園のみの西枇杷島保育園も、定員を超えている状態と聞いています。この状況ですから、西枇杷島保育園の入園はとても困難で、例えば、私の場合、家庭の事情から仕事をすることを決心し、仕事をやっと思えることができ、保育園の入園手続きに役場へ申請しましたが、定員オーバーで入れません、とあっけりと断られました。そのため、やっと思入れた雇用の機会をあきらめることになってしまいました。園の受け入れ体制がないために、親は仕事につけない、というのは、市、園側の都合であり、本来あるべき体制は、市や園は、仕事を持つ親の子育てを支援するという体制であるべきです。西枇杷島の幼稚園2園は逆に子供の数が少なくなっている聞いています。不況の時代、共働きの家庭が増え、就労形態も多様化しているのは明らかです。保育園の入園の空きを待つという状況が解消されるよう、西枇杷島地区の保育園の増園を検討ください。</p> <p>仕事を探す前提として、まずスムーズに入園できる状況を西枇杷島地区で作ってください。宜しくお願いします。</p>
5	2(1) ⑩ 星の宮保育園の建て替え 4(2) ① 入学へ向けての準備	<p>現在、年長と2歳児が保育園でお世話になっています。</p> <p>星の宮保育園は行事も多く、親が参加する機会が多々あるが、子どもの様子もよくわかり、続けて欲しいと思う。</p> <p>園の老朽化もあるが、星の宮はプールも大きくて夏は楽しく泳げて子ども達も喜んでいるので、プールは建てかえがあっても、そのまま残してほしいです。</p> <p>4月から娘が小学校へ入学しますが、学校内のことが全くわからず、どこまで文字等を教えておけばよいのかなど、準備する事等の連絡をもう少しわしく話があるとよいと思う。</p> <p>合併して幼・保統一として、色々、考慮してあるが、減らすばかりではなく、続けていく事も、増やす事として、子ども達が多く楽しく生活できる環境をつくっていかなくてはいけないと思う。</p>
6	2(1) ⑦ 偽就労証明での入園 2(3) ① 男性保育士の採用	<ul style="list-style-type: none"> ・大枠、この「幼児教育プラン(案)」にて、問題ないと思います。 ・大勢には影響ないと思いますが、ご検討戴きたい内容を二点記載させて頂きます。 <p>*保育園についてー</p> <p>①「両親が仕事のため、家庭で養育できない幼児を保育する場」という定義であったように記憶していますが、実際に仕事を持っていない方々の入園許可が容易になされている状況(偽就労証明でも容易に承認)等から、本当に仕事において養育をお願いしたい立場の母親が、時折無理を生じて園父兄の役員行事等に合わせざるを終えない状況が生じているのが実態。徐々にご考慮戴けますと、今後、共働きをしていかれる方々に優しい保育体制になるのでは・・・と感じています。</p> <p>②現在実施して戴いている異年齢での縦型グループ保育には大賛成で、良い勉強をさせて戴いていると感じています。より、多くの人や友達の考え方・生き方を学ぶという意味においても、男性保育士さんの採用を積極的に進めて戴けると宜しいかと感じます。</p> <p>以上、ご査収・ご検討のほど、宜しくお願い致します。</p>

7	<p>3(3) ② 幼稚園の送迎バス</p> <p>4(1) ① 放課後対策（学童保育、児童館など）</p>	<p>1. 幼稚園のバスがなくなるが、バスはない、駐車場もないでは、入園するなどといったのも同じである。市に合併したのだから、バスの周遊範囲を広げるのが本来であり、なくすなんて言語道断だと思う。</p> <p>2. 女性が働けるようにと国を挙げて制度改革をし、幼児期は保育時間延長などで改善されてきているようだが、幼児期より小学校へ行ってからのほうが子供を安心してあずけるところがない。3月31日までは、保育園。4月1日からは学童と預けられるようにはなっているが、4月から小学生でただでさえ不安がいっぱいなのにいきなり学童に預けられるはずもない。よって小学校へあがるとともに仕事をやめる母親が多い。実際に利用できるシステムを作してほしい。</p> <p>3. 名古屋市のようなトワイライトスクールをつくってほしい。放課後安心して遊べる場所を6年生まで確保したい。</p> <p>4. 児童館の格差がありすぎる。清洲小学校の児童館が一番人数が多いにもかかわらず、庭もなく、室内に一輪車が置いてある状態である。一部の子供は体育館の2階を使っているようだが、児童館に遊びにきた子供とかと遊べないことになる。放課後の少しの時間だからという問題ではない。児童館として機能していないことを認識してほしい。</p> <p>枇杷島学区の児童館は、放課後、児童クラブの子ばかりか、それ以外の小学生・幼稚園児・3歳以下の子までが来て、ドッチボールとか縄跳びとかをやっている。児童館はどの子供も対象であるはずなのに、清洲は、午後からは小学生以外はきてはいけないことになっている。小学生も気軽にこれる雰囲気ではない。学童の子でいっぱいなのです。児童館の定義に反していると思います。現在プールが建設中で、体育館もできるようだが、児童館も児童みんなが遊べるよう考えてほしい。</p> <p>以上、認定こども圏をつくるのは良いことだと思いますが、それよりも今現在早急に対策してほしい点がありましたので投稿します。どうかよろしくお願いいたします</p>
8	<p>1(1) ⑬ それぞれのよさを取り入れた幼保一元化</p> <p>2(2) ⑤ 行事内容の統一</p>	<p>保育園に通っているため、幼稚園のいいところや、幼稚園と保育園の違いについて、よくわからないところがあります。</p> <p>現状の保育園については、親子共、大満足で、子供達も毎日楽しく通園しています。子供のために良いのであれば、幼稚園の良い所、保育園の良い所を取り入れ、幼保一元化に向けて進めていく事は大事だと思います。また、同じ市でありながら、保育園によって行事内容にバラツキがあるので、統一してほしい。</p>
9	<p>2(1) ② 乳児の受け入れ人数増加</p> <p>2(3) ② 子供の数に応じた保育士の配置</p> <p>2(2) ⑥ 各園の保育の質の均一化</p>	<p>共働きが増える現在、乳児においては入所待ちや希望する園に入所できないといったケースがある。各園で受け入れ人数を増やし、また、子供の数に応じた保育士の配置を望みます。</p> <p>合併により、各園の保育の仕方の違いをなくし、どの園でも同様の保育が受けられる様にしていく。各園のよい所はそのまま、保育の質が落ちることのない様にしてほしい。</p>

10	<p>1(2) ⑮ 小1問題の解決になるか</p> <p>1(3) ⑨ 保育園の現状維持</p> <p>2(2) ① 3(2) ① 保育園・幼稚園の入園前の見学・利用</p> <p>4(2) ④ 幼保小連携</p>	<p>小1問題については、保育園、幼稚園、公立、私立などの差は感じられず、幼保の一元化で、解決するとは思えません。小学校での学級崩壊などを心配するのであれば、子供の心理面から働きかける事を優先して、型にはめ込む教育は避ける方が良いと思います。保育園も幼稚園も入園前に見学や利用ができ、選択しやすくなると思います。保育園に子供が通っていますが、今のままで十分な保育を受けているので、現状維持を望みます。</p>
11	<p>1(3) ⑩ 現状の保育体制維持</p>	<p>現状通りの保育園体制を希望します。</p> <p>今の保育園に満足しているので、認定子ども園は望みません。今まで通り、19時迄で働く母親が増えているのでお願いします。</p> <p>合併して、色々、今、落ち着いたので、体制が変わると親も混乱するので、現状維持が一番だと思います。</p>
12	<p>1(1) ⑤ 清洲町へ公立幼稚園を</p>	<p>現在、清洲町には、公立幼稚園がありません。必要ですので、是非、建ててください。</p> <p>幼保一元化に伴って、清須市にも、認定こども園ができると、ますます、小さい子を持つ親は働きやすくなると思います。募集人数が少ないとなかなか入れなかったりするので、できるだけ、多くの人が利用できるように、工夫してほしいです。</p>
13	<p>1(1) ⑥ 公立幼稚園整備</p> <p>4(3) ② 未就園児の遊べる場所</p> <p>4(3) ⑤ 図書館、市民プール整備</p>	<p>○未就園児がいつでも遊べる施設があるといい。(夏休み、冬休み、春休みの期間も)</p> <p>○大きな図書館、市民プールなどがあるといいです。</p> <p>○公立の幼稚園があるといいです。</p>
14	<p>1(1) ⑦ 新川・清洲地区に幼稚園</p> <p>2(2) ① 未就園児の入所待ちの解消</p> <p>2(2) ⑫ 保育園の遊具の修理</p>	<p>西枇杷島地区には幼稚園があるのに、新川・清洲地区にはないのか？</p> <p>保育園は基本的に、夫婦が就労していなければいけないので、働いていない家庭は、バスなど市外の幼稚園などへ行っています。そこでまず地域で育てることが出来ず、友達との関わりも少ないと思います。近くに幼稚園があれば、市外へ行く方も減ると思いますし、保育園のあきが出来れば、本当に働きたいお母さん方を優先して入園させてあげられると思います。それに年に何回も就労証明書を出さなくても良くなると思います。年に何回も同じ事を会社をお願いするのも言いづらいです。聞くと、未就園児の入園希望者が順番待ちの状態だそうです。そういったクラスの定員を増やせないのでしょうか？若い世帯の方も多く、働かなくてはいけなくても、小さな子供がいては無理です。そういった家庭を支援してあげられるのが保育園だと思います。また、保育園の遊具が修理されていなくて、使えなくなっています。子供達も使ってだめって言うのもかわいそうに思います。早めの修理をお願いします。</p>

15	1(4) ⑩ 目標値への疑問 2(3) ③ 保育士の充実	<p>幼児教育の基本方針のなかに、「多様な就労形態の保護者の子育てを支援する」とありますが、実際に支援となっているのでしょうか。現在、延長保育を実施している園が10園なのに対し、このプランの中の、目標(21年度)が5園。また、土曜日の休日保育実施の園が10園あるのに対し、目標が0園というのでは、子育てを支援しているとは、言い難いです。</p> <p>いわゆる“ベテラン”といわれる保育士が定年退職していくなか、親が安心して子供をお願いできる保育士の充実をしていただきたいです。認定こども園もいいですが、今、直面しているこまごまとした問題にも目を向けていただきたいです。</p>
16	1(3) ④ 今の園の充実から	<p>認定こども園や民間委託など新しい運営方法を考える事もいいとは思いますが、実際、保育園を利用している私としては、周りの方からもいろいろな意見が耳に入ってきますが、個々で話しているだけで、そのまま消えてしまっている現実です。多様な就労形態の親への支援や子供の為と本当に思った方針であれば、こちらから、市や国に何度もつっこんで話を聞かないと、こちらからはなかなか教えてもらえない事も多々あります。新しい運営方法を考える前に今のそれぞれの園の事をまず、先生や子供・保護者にとって利用しやすい場所にしていけば、新しい運営方法の一番よい形が生まれるのではないですか？</p>
17	1(1) ① 認定こども園は必要 4(1) ② 学校での学童保育	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、西枇杷地区には保育園は一園のみであり、その園も年々定員を増やし、無理矢理部屋数を多くすることで対応しているように見受けられる。一方で幼稚園は2園あり、園児は減少傾向にあると聞く。今後ますます職を持つ母親が増えることも容易に想像され、もしも今後清須市が子育てしやすい街を目ざすのならば、この状況はお粗末であると言わざるを得ない。官公庁の枠をこえて、幼保一元化を目ざすことは急務ではあるまいか。 ・隣接する名古屋市は学童保育にあたるトワイライトのしくみができつつあるように見える。清須市の学童保育のすぐれている面ももちろん認識しているが、片や年額500円程度とは・・・。学校内でボランティアの助けをかりて低予算で保育することはできないものか。
18	1(2) ⑬ 一元化により縦の繋がりがどうなるのか 1(2) ② 「認定こども園」はどのパターンになるのか 1(1) ⑭ のびのびとした教育を	<p>インターネットにて、資料を拝見させて頂きました。</p> <p>施設の建て替え、多様化するニーズに応える等、仕方がないのかもしれませんが、旧新川地区にて本当に心のこもった子育て支援を受けた者として、合併後の市の方針に疑問を感じます。どこまでいっても、各家庭の抱える問題は幅広く、形式的な事で解決するとは思えません。ましてや効率化などはもってのほかだと思うのです。</p> <p>一元化されたら、今までの縦のつながりはどうなるのですか？</p> <p>「認定こども園」のどのパターンになるのか、決まっているのですか？</p> <p>一貫した教育は、学校側にとって楽なだけではありませんか？どんな案にも長所、短所がありますが、働かれる方々も人間です。直接お世話になる先生方が無表情で子供に接せざるをえないような労働条件だけにはしないで下さい。子供にはわずかな時間。のびのびさせてあげたい。この自然の中で！！</p>

19	<p>1(3) ② 幼稚園の統合と保育園定員の増加</p> <p>2(1) ⑥ 産休時の保育園退園</p> <p>2(1) ⑨ 保育園の教室の適正化</p> <p>2(3) ④ 適正な職員数の確保と保育園行事への取組みの限度</p> <p>2(3) ⑤ 保育士の質</p>	<p><非公開希望></p>
20	<p>1(1) ② 幼保の一体化の必要性の説明がない</p> <p>1(4) ② 各園の特徴をふまえた計画</p> <p>1(4) ④ グループインタビュー調査結果の反映</p> <p>1(4) ⑤ 食育の推進</p> <p>1(1) ③ 認定こども園の必要性の記載を明確に</p> <p>1(4) ⑥ 施設整備パターン・管理運営パターンの利点・問題点</p>	<p>資料の順番に意見を箇条書きで記入します。(理解不足についてはご容赦下さい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2(2)の中で、『保育・幼児教育を・・・必要性が指摘』と記載されていますが、全ページを読んでも、この“必要性”が明確に記載されていません。これが、このプランの一つの原点のように思えますので、ぜひ、プランの中で明確にしていきたいと思います。 ・ 4(1)の中の図表1に各園の教育・保育の特徴が記載されています。ただ、抽象的な目標や方針のみであり、具体的な保育内容、教育内容が記載されていないため、正直言います、特徴が見えないと思います。十分に分析された上で検討されているとは思いますが、ぜひ、特徴がわかるようにしていただきたいと思います。将来の保育・教育を議論し検討する上でも、現状分析が非常に重要で、今の良さをどう継続し、悪さを改善するか、そのための手段を検討するのが目的だと思いますので、ぜひ、我々市民にもわかるように示していただきたいと思います。幼保一元化、民間委託は一つ的手段だと思います。 ・ 5(1)の中に、グループインタビューの結果が掲載されていますが、この結果を元にどのようにアクションプランに活かしてきたかがよくわかりません。全ての声に対応を書くことは難しい面もあるとは思いますが、できれば関連付けて記載いただけるとわかりやすいと思います。ぜひ、今回のパブリック・コメントについても、そのように結果をアクションにつなげる、どうつなげたかがわかる、という姿をお願いしたいと思います。 ・ 7(2)の中に、食育(2)②の中です)という言葉がありますが、ここでは言葉は出てくるのですが、全体のプランの中でこのキーワードが見えてきません。非常に大切な事だと思いますので、もちろん検討いただいているとは思いますが、ぜひ、プランに反映していただければありがたいと思います。

- ・ 8 (1)の中で、「3地区3認定こども園」体制への移行を図ります、とありますが、最初に書きましたように、認定こども園（幼保一元化）の必要性があまり明確に記載されていないと感じています。これも最初に書きましたが、どんな保育、教育を目指すか？という具体的な検討を、現状分析と将来動向（一般財源化等の環境変化も含めて）分析をしながら進めた上で、それを実現するには、認定こども園が一番良い、という結論付けの上に、このプランがあるべきだと思います。もちろん、詳細な検討を行った上での判断とは思いますが、このプランを見る限りはよくわかりませんので、ぜひ、これもよくわかるようにしていただいた上で進めていただきたいと思います。
- ・ 8 (2)の図表 22 の中に利点がありますが、『園の数…理解がしやすい』という内容は、行政としては非常に大事な関心ごとだとは思いますが、利用者の立場にたった利点ではないように思えます。たぶん言葉のあやだとは思いますが、利用者の立場での利点をあげていただきたいと思います。
- ・ 8 (3)の図表 23 の中には、公立保育園の利点・問題点があげられています。現在運営を実際に行っているわけですから、この表にあげた利点・問題点が現在本当に利点になっているか？問題点になっているか？そのギャップを確認した上で、比較をしないか、一般的に世の中で言われている利点・問題点だけでは、判断を誤るのではないかと少し心配になりました。実際には、現状分析をやられて上での結果かもしれませんので、そうであれば失礼をお許し下さい。また、図表 24 でも、民営化案に対して、保育・教育の質的低下がおきる、指導が不十分になる、という問題点をあげていますが、では現在の公立園の運営においては、どの程度の質レベルで、また、市として考える、あるべき姿のレベルはどの程度なのでしょうか？このような分析があるとわかりやすいですし、また、その市として目標とするレベルがあれば、そこに向けてどのような方法をとれば良いかが見えてくるのではないかと感じました。現在、市から各保育園に具体的にどんな指導をしていて、それらが、民営化するとどう変わるのか？という具体的な事象に対する考察があると、我々素人にもわかりやすいと感じました。

いろいろと生意気な事も書きましたが、最後のグループインタビューの資料を見ると、縦割り保育の希望、行事等の保育園格差が大きいという意見、園外保育が多いという利点、など、いろいろと貴重な意見が書かれていると思います。ぜひ、これらの意見も参考にしながら、第三者的な見方で、現在の保育園の実状も分析いただき、よりよいプランにしていいただければと思います。子を持つ…人の親として、意見をさせていただきました。

21	<p>1(1) ⑧ 公立幼稚園を排除しない</p> <p>3(2) ⑧ 発達障害等への対応</p>	<p>合併以前からの通園バス、園庭開放など地域に密接していたよい点が失われ、残念に思っていました。他の土地に比べると、子供（兄弟）が多くある、この清須市にとって、働いている人しか行けない保育園よりも、家庭でしっかり子育てできる幼稚園の存在がいかに大きなものか、わかって頂きたいです。働いている家庭の子も大切ですが、家で小さな子を子育てしていて、働けない親の多いこの清須市にあって公立幼稚園のあり方を排除しないでほしいです。</p> <p>発達障害、おくれ、LDの子供もふえていく時代に添った指導をお願い致します。1クラスに自閉症児3人で加配の先生の制度は見直して下さい。現場の大変さを理解してない基準だと思います。</p>
22	<p>1(1) ⑩ 認定こども園の質を高く</p> <p>1(2) ① どの認定こども園のタイプをめざすか</p> <p>1(1) ⑫ ゆとりのある保育へ</p> <p>2(2) ④ 3(2) ③ 自然体験の充実</p> <p>1(4) ⑩ パブリック・コメントの説明</p> <p>4(3) ① ランドセル予算の見直し</p> <p>3(3) ⑤ 園バスが必要に</p>	<p>「パブリック・コメント」とあえてカタカナにするのはなぜですか？もっとわかりやすく呼びかけてもらいたいです。</p> <p>資料を読み、意見を出すにあたり特に感じたことは、幼稚園、保育園、どちらも、地域にある（近くである）ことで選択する人が多いのではないか、ということです。</p> <p>これから認定こども園へと移行していくのならば、市内のこども園の基準を質の高いものにそえる努力をして、安心して子どもを送り出す事のできる環境を整えていただきたいです。</p> <p>子どもにとってどうか、ということも大切にしたいので、保護者からの要望ももちろんですが、園で働く先生方の労働条件を良くし、ゆとりのある保育へとつなげていってもらえることを望みます。</p> <p>具体的な希望として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料にある認定こども園のタイプのうち、どのタイプを目指すのかを示してもらいたい。今までとどう変化するか、説明が欲しい。 ・幼・保を問わず、自然体験（散歩や野外での遊び、野菜づくりなど）をもっと充実させてもらいたい。 ・ランドセルの配布はやめて、その分予算をもっと有効に使って欲しい。 ・幼稚園を統合するのなら、遠くなることで園バスがまた必要になってくるのでは。 ・年中、年長児の時期に、週に一度くらいのペースで外から先生に来てもらって体操の時間を作って欲しい。
23	<p>1(4) ① 新川・清洲地区での私立幼稚園児数</p> <p>1(2) ⑩ 認定こども園での行事やPTA活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園は定員割れで希望者が少なく、保育所は定員オーバーで保育所を希望する人ばかりのようにとれるが、新川地区、清洲地区でどれくらいの方が私立の幼稚園に行っているのかのデータがなくては、幼稚園は不用だということにはならないのではないですか。 ・認定こども園では、行事やPTA活動はどうなるのか、不安です。幼稚園では行事は平日に行われ、親子参加の機会が多いです。保育所では土日に行われ、親の参加は平日にはないときいています。相反する親を一緒にしたら、平等にPTA活動は行えるのか？平日の行事に参加できる親と参加できない親がいては、自分の親は来てくれないのか、というさびしい気持ちをもたせることにならないかと心配です。

24	<p>1(2) ⑪ 保護者参加の行事</p> <p>1(2) ⑫ P T A 役員の役割</p> <p>3(3) ⑤ 通園バスが必要</p>	<p>保育園と幼稚園を統合した認定こども園について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者参加の行事など、仕事をしている人と仕事をしていない人（又は週2～3日のみ）では、同じにするには行事を減らすしかないのでは。＝こどもの様子がみれない。 ・P T A 役員の役割についても、今の幼稚園と同じことは保育園の人には難しいのでは。 ・毎日預かりを利用している子にとっては、預かりの子が増えるのは仲間ができてうれしい。 <p>など、統合してのメリットがあるのかがわからない。</p> <p>幼稚園を1つにするというのは、通うのにバスもない状態では難しいのでは。大人や児童は歩けても、下の子がいたりすると、雨の日など不安で、他の私立を選ぶ人が増えるのでは。</p> <p>現状がベストとは言わないが、利用する人が安心して、楽しくすごせ、卒園時によかったと思える園を考えてほしいです。</p>
25	<p>1(2) ⑥ 保育料の負担増</p> <p>3(3) ③ 通園バスの廃止は残念</p> <p>4(2) ② 幼稚園から小学校通学区への繋がり</p>	<p>西枇杷島については、第1、第2幼稚園から西枇杷小、古城小に進級するが、やはり区分けをそのまま持ち上げられるようにした方が、親子共に交流に苦勞しないのではないかと思います。認定こども園は、具体的にないので、よくわかりません。ただ、幼稚園での保育料金は、他と比べ安いので、保育料が上がると家計への負担もあるので、心配な事です。</p> <p>仕事をしたくて、保育園の需要が高くなっていますが、反面、幼稚園のうちは、ゆったり子育てをしたいので、必ずしもそのような仕事を求めるばかりではないと思います。したがって、今の幼稚園の形式は変える事なく、認定こども園の建設に取り組んでもらい、たくさんの選択ができるよう、お願いしたいと思います。</p> <p>通園バス廃止の件については、本当に残念です。私自身、以前に次男出産時にも、3年間利用した事があり、とても助かったからです。廃止によって、困ってしまう方も、これからたくさん出てくると思います。少し心配です。</p>
26	<p>3(1) ① 耐震性、床が滑る</p> <p>3(1) ② 段差、階段・遊具の老朽化</p> <p>3(2) ② 遊び中心の教育内容は疑問</p> <p>3(2) ⑥ 子供数と先生方の負担</p> <p>3(2) ⑦ 学習障害などへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私が通っていた30年近く前とあまり変わらない状態に驚いたと同時に、建物自体の耐震性は大丈夫なのかと不安になりました。 ・床が滑るので危険。 ・世間は何処もバリアフリーの時代ですが、かなりの段差が目立つ。階段や園庭の遊具においては老朽化が進んでいて安全性に不安を感じる。 ・幼児教育が騒がれる中で自由遊びが中心、参加するもしないも子供次第、というのには少し疑問を感じます。ある程度流れを決めて、やらない子供達のフォローも必要だと思う。音楽療法等、もう少し教育内容を充実させても良いのでは、と思います。 ・先生の負担が多過ぎて子供1人1人に目が行き届いていないと思う。 ・学習障害や集団行動の苦手な子供達が増えている中、専門の知識を持つ先生が1人でも増えれば救われる子供・母も大勢いると思う。

27	<p>1(2) ⑤ 認定こども園の保育料</p> <p>1(3) ③ 幼稚園・保育園で分かれた方がよい</p> <p>3(3) ⑥ 通園バスは必要</p> <p>3(2) ④ 自然体験等は畑で</p> <p>3(2) ⑤ 運動会は別々に</p> <p>1(1) ⑨ 幼稚園の適正規模</p> <p>4(3) ④ 公園の遊具が充実していない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「認定こども園」は保護者の就労に関係なく0歳から預かってもらえるし、朝早くから預かってもらえてたすかと思うが、いまの幼稚園の保育料と比べるとどのくらい違うのか気になる。 ・通園バスはやはりあった方がいい。 ・自然体験「芋掘り」「イチゴ狩り」は畑で体験するのがいい。 ・運動会は第一、第二で別々でやったが、園庭がせまいが「一体感」があり良かったと思う。 ・幼稚園が定員割れしている様だが、今くらいが園庭を見ても部屋を見ても、ゆったりしていいと思う。 ・「認定こども園」も気になるが、今まで通り幼稚園・保育園で分かれた方がいい。 ・名古屋市に比べると公園の遊具が充実していない。
28	<p>1(2) ④ 認定こども園の具体的な案を</p> <p>1(4) ⑨ 計画はコンパクトに</p>	<p>認定こども園をどこに設立するのか、月謝はどうなるのか等、もっと具体的な案を出してほしいです。子どもを通園させる親としては、ここが一番知りたいところではないでしょうか。</p> <p>幼児教育プランも、もう少しコンパクトに要点を絞って、誰でも”読んでみようかな”という資料を出さないと、ただでさえ忙しい母親はパラパラめくって終わってしまいます。地域一体となって子どもを育てようという趣旨であるならば資料の出し方にも、もう少し配慮が欲しいです。</p>
29	<p>1(2) ⑦ 認定こども園はわからないことが多い</p> <p>1(2) ⑧ いつごろから運営開始か</p> <p>1(4) ⑧ 幼稚園入所率の分母</p> <p>1(2) ③ どの検討パターンにするのか</p> <p>1(4) ⑦ 小1問題とは？</p> <p>1(4) ③ グループインタビュー調査の計画への反映</p>	<p>病児保育や一時保育など特定保育が充実するのは、大賛成です。だからといって、認定こども園に大きな期待を寄せているというわけでもありません。なぜならば、資料を見ても、現在の幼稚園がどうなるのか、こども園の定員や保育料はどうなるのか、希望すれば入園できるのかなど、わからないことが多く、不安があるからです。現時点で明確な数字を出すのは難しいとしても、上がるのか下がるのかという傾向を知りたいと思います。そして、このプランを実行してこども園ができたとする、いつ頃から運営を開始したいと計画しているのかがわかりにくいです。</p> <p><質問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p 18 の図表 17 で幼稚園への入所率の母数に乳幼児数を使用するのは、おかしいのではないのでしょうか？ 3歳以上の子供しか入園できないのですから。－ ・ 検討パターンを多く記載してありますが、どれを一番に進めていく方針かわかりません。 ・ 「小1問題」とはどんなことですか？ ・ グループインタビューの資料がしっかりと記載されていますが、プラン（案）の中にその意見が反映されているのでしょうか？

30	2(1) ⑩ 保育園の定員・クラスオーバー	<p>今まで保育園に通っていて不満に思った事はありませんでした。しかし、合併してから星の宮保育園に入園する子供が増え、1クラスの人数もクラスも増え、教室に困るような状態になっているように思われます。</p> <p>その反面、朝日保育園は少ないと聞きます。園の大きさもあると思いますが、子供の人数が多くて先生の目の行き届かなくなる事、平等な保育ができるか等心配です。入園希望の制限はできないのでしょうか。</p>
31	1(1) ⑤ 保育園の継続(長時間や夏休みがない等)	<p>・仕事をしている親にとって、長時間や夏休み、冬休み等、長い期間あずけられる事がとても助かります。幼稚園との差はこの事が一番大きいと思います。</p>
32	1(3) ① 保育園・幼稚園のいいところを均一化	<p>保育園は働く親にとっては安心して預けられ、食事面、行事の内容も充実しているので、充実して欲しい。</p> <p>清須市全体で考えると、幼稚園、保育園の数のバランス同じではないので、どちらの園も、幼稚園に保育園のよさ、保育時間、夏休み、土曜日の保育の充実を、保育園に教育的な部分の充実をはかっていけるといいなと思う。</p>
33	1(3) ⑥ 保育園の継続(長時間、長い休みがない)	<p>長時間、子供を預けることができるので助かります。</p> <p>長い休みも預かってもらえるので、そのまま続けてほしいです。</p>
34	1(3) ⑦ 保育園の継続(夏休み等がない)	<p>新川地区の保育園は園庭でのびのび遊べているので子ども達も元気いっぱいです。季節ごとの遊びを教えて頂けるので親としても安心していきます。</p> <p>夏休み冬休みがないので働く親としてはとても助かっています。</p>
35	2(1) ⑤ 保育時間を16時30分に	<p>保育園のおむかえの時間を、16時30分に戻してほしい。</p>
36	1(3) ⑧ 保育園の継続(長期の休みがない、長時間保育)	<p>働くお母さんは増えているので、幼稚園の様な長期な休みがあるのは困ると思います。</p> <p>保育園の早朝～長時間は必要なので、今まで通りの保育園でお願いします。</p>
37	2(1) ④ 長時間保育は助かる	<p>母子家庭なので保育園は長時間保育があり、助かります。</p>
38	2(2) ② 新川の保育内容の継続(合宿保育、昔遊び、異年齢のグループ分け等)	<p>現在二男が土器野保育園在園しております。</p> <p>長男は、年少時旧第三保育園で統合し旧第一保育園の登園となりました。園児の減少、予算等で統合はいたしかたない事と思います。新川地区4園、支部役さんを通じ、4園は、同進行していてよいと思います。</p> <p>以前から、新川地区園は合宿保育もやっており、子供達の成長の一貫として、是非今後共続けて頂きたい。私達保護者は、子供の安全性、更なる成長を望みます。(元気でたくましく子供らしい)</p> <p>又、花いちもんめや竹馬、缶ぽっくり、現代では見られないです。</p> <p>そういった、昔の遊び、異年齢のグループ分け(年長さんが年中、年少の面倒をみる etc)、是非今後共維持して頂きたい。</p>

39	2(2)③ 保育内容 の継続(行事・ お泊まり保育)	今まで通り、行事などは行って欲しい。 お泊まり保育なども続けて欲しい。
----	----------------------------------	--

清須市 幼児教育プラン

発行日 平成 20 年 3 月

発行 清須市

〒452-8569 愛知県清須市須ヶ口 1238 番地

TEL 052-400-2911

企画・編集 健康福祉部 子育て支援課 (清須市役所清洲庁舎)

〒452-8563 愛知県清須市清洲一丁目 6 番地 1

TEL 052-400-2721
